# ４．カリキュラムの構成

## 【1】カリキュラム構成の考え方

本学部は、教員養成のための学部で、学校教育課程に：小中一貫教育（小学校主免専攻、中学校主免専攻）、教職実践基礎、発達支援教育（子ども理解専攻、特別支援教育専攻）の 3 コースが置かれている。各コース・専攻のカリキュラムは、教育職員免許法及び同施行規則、介護等体験に関する法律等に基づいて編成され、「教科及び教科の指導法」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「特別支援教育に関する科目」等から構成されている。各コース・専攻とも卒業時までに、専攻の分野を学修し、教員としての教養と専門的能力及び実践的指導力を身につけるためのカリキュラムが準備されている。さらに本学大学院教育学研究科における高度な教員養成と密接な関連を持っている。

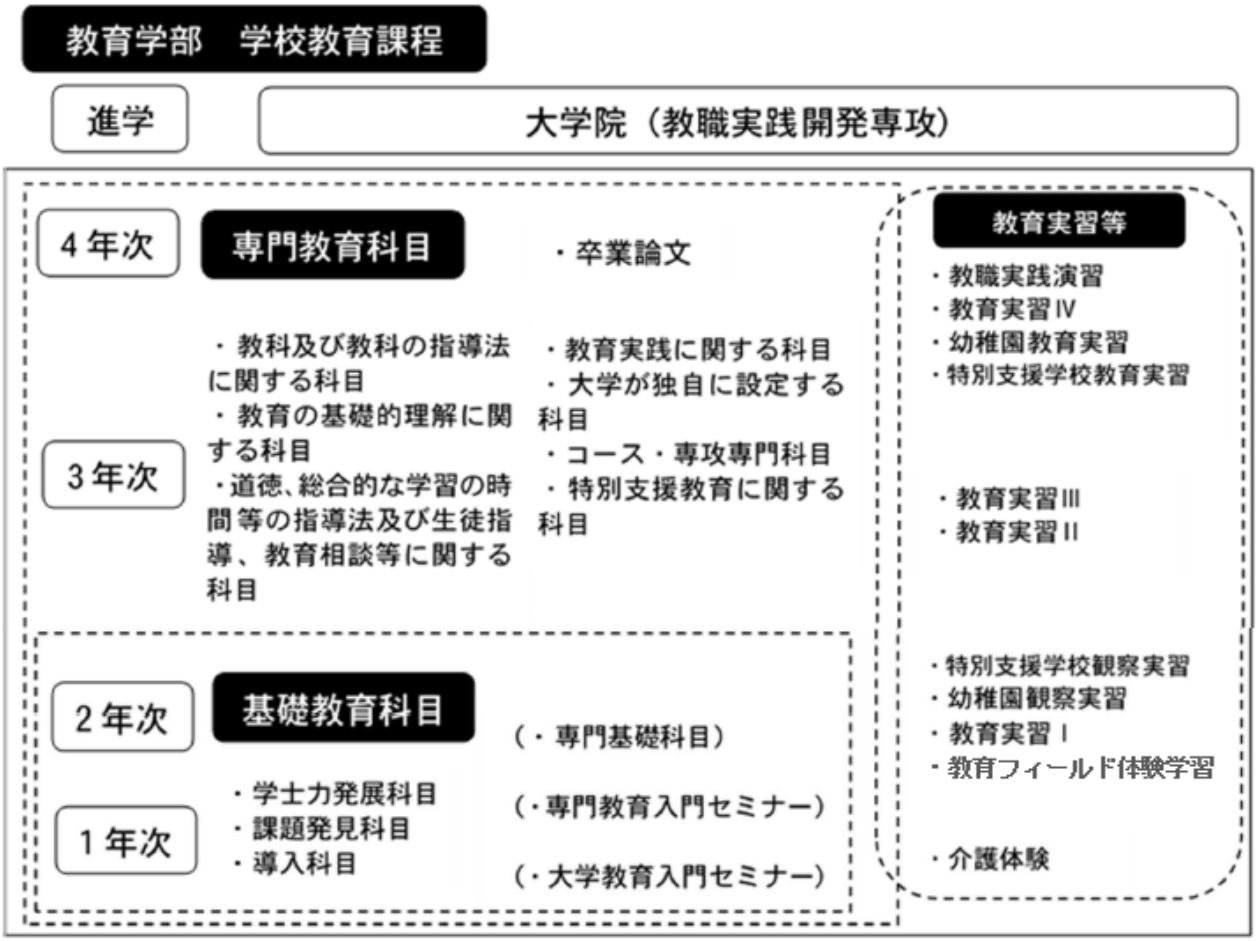



図 4-1-1　本学部のカリキュラムにおける科目構成の概要

## 【2】「単位」の考え方と GPA について

### １　「単位」の考え方

大学を卒業するためには、4 年以上在学し、本学部の定めるカリキュラムに従って授業科目を履修し、定められた必要な「単位」数（卒業所要単位数）以上を修得しなければならない。1 単位の修得には、45 時間の学修を必要とすると定められており、この 45 時間には授業による学修時間と授業外の学修時間の両方が含まれる。各授業科目における「単位」数と、必要とされる学修時間は、授業形式に従って次のように計算される。

表 4-2-1 授業形式と単位数及び必要学修時間

| | | 単位修得に必要な学修時間 | |
|---|---|---|---|
| 授業形式 | 単位数 | 授業時間 | 授業外の学修時間 |
| 講　義 | 2 単位 | 30 時間<br>(2 時間 × 15 回) | 60 時間<br>(講義 1 回につき 4 時間) |
| 演　習 | 1 単位 | 30 時間<br>(2 時間 × 15 回) | 15 時間<br>(演習 1 回につき 1 時間) |
| 実験・実習・実技 | 1 単位 | 30 ～ 45 時間<br>(2 時間/3 時間 × 15 回) | 15 時間 ～ 0 時間<br>(実験・実習・実技 1 回につき 1～0 時間) |

※1　単位計算上の授業「1 時間」は、実際の授業時間として 45 分をあてる。
※2　通常、授業時間「2 時間」を 1 コマとして設定される。
※3　コース・専攻によっては「2 単位の演習」が設定されているが、これは授業時間 30 時間と授業外の学修時間 60 時間を必要とする。

表 4-2-1 が示すとおり、単位の修得には授業形態に関わらず、予習及び復習による授業時間外の学修を必要とする。したがって、単純により多くの単位の修得を目的とするのではなく、単位制度の主旨に従って、各科目の授業に真剣に取り組むことに加え、授業時間外での学修にも取り組み、より実質的な学修を行うことが求められる。なお卒業所要単位（通常授業時間外に開講される集中講義、体験学習、教育実習関係、卒業論文等の科目を除く）に関しては、各年次に履修登録できる単位数の上限の目安を定めている。1 年次から 3 年次は前学期・後学期、それぞれ 25 単位、4 年次においては同じく、それぞれ 20 単位である。

## 2　成績評価と GPA について

教育学部では、学部及び各コース・専攻の学修教育目標を実現するための学修支援システムの一環として、GPA 制度を導入している。以下にこの制度について概説する。

### 2-1 成績評価

授業の成績の評価は、100 点満点で 60 点以上を合格とし、59 点以下は不合格とする（184 頁の受講及び試験に関する細則を参照)。またこの成績は下記のように、授業を担当するそれぞれの教員が定める科目到達目標により、秀、優、良、可、不可の評語を用いて評価される。

秀：科目の到達目標に特に優秀な水準で達している（評点：90 点以上）
優：科目の到達目標に優秀な水準で達している（評点：80 点以上）
良：科目の到達目標に良好な水準で達している（評点：70 点以上）
可：科目の到達目標に必要最小限の水準で達している（評点：60 点以上）
不可：科目の到達目標の必要最小限の水準に達していない（評点：59 点以下）

### 2-2 GPA とは何か

GPA（Grade Point Average: 成績指標値）とは、簡単には各学生の成績の平均点を表すもので、学生が履修した科目の評点に、各科目に対して単位数の重み付けを行い、これを平均化したものである。単位数

の重み付けとは、“単位の実質化”の観点に基づき、4 単位科目は、2 単位科目の 2 倍の学修が求められるとの考えから、その成績に 2 倍の重みを与えるものである。本学部では「各学期の GPA」と入学時からの累積成績の「累積 GPA」の 2 つの GPA を設定している。

### 2-3 GPA 制度の目的と利用

GPA は、学部・課程の教育目標を実現するための厳格な成績評価システムを構成するものの一つである。以下に示すように、学期毎に計算されるため、自身の成績の伸びや学修状況などの変化を客観的に判断することができる。また学修の到達度を数値的に明確にできるため、自身の授業への取り組み・学修意欲の向上、また教員の学修指導への情報提供といった、学修支援ツールとしての役割を持つ。また GPA は以下に示す学生表彰にも利用される。

教育学部では、成績優秀者及び研究・サークル活動等の諸活動で顕著な活躍をした者等に、「木犀大賞」、「木犀賞」を授与している。成績優秀者の表彰は、下記のとおり GPA を利用して選出される。

- 「木犀大賞」：卒業該当年次学生で、入学から当該年度前学期までに受講した科目の GPA が最上位の者。
- 「木犀賞」　：入学から当該年度前学期までに受講した科目の GPA が 3.5 以上の者。また各学年にこれに該当する者がいない場合は、GPA 最上位の者となる。

### 2-4 GPA の計算方法

本学で利用する GPA の計算式は以下の通りであり、**「履修登録科目」のすべて**が対象科目である。

**GPA＝Σ[GP×科目の単位数]／（全履修科目の単位数の合計）**

ただし、GP＝（受講科目の 100 点満点の評価点-54.5）／10

Σは、各学期または累積の受講科目に関する合計を示す。

**また、60 点未満の不合格科目では、GP＝0 とする。**

**表 4-2-2 GPA の計算例**

| 科目名 | 単位数 | 成績 | 評価点 | GP | GP×科目単位数 |
|---|---|---|---|---|---|
| △△学 | 2 | 優 | 85 | (85-54.5) ／10＝3.05 | 3.05×2＝6.10 |
| ○○学 | 2 | 不可 | 51 | 0 | 0×2＝0 |
| □□実験 | 1 | 可 | 68 | (68-54.5) ／10＝1.35 | 1.35×1＝1.35 |
| ＊＊研究 | 4 | 良 | 72 | (72-54.5) ／10＝1.75 | 1.75×4＝7.00 |
| ※※論 | 2 | 秀 | 95 | (95-54.5) ／10＝4.05 | 4.05×2＝8.10 |
| 合計 | 11 | - | - | - | 22.55 |

**GPA＝**22.55／11＝**2.05**（小数第 3 位以下を切り捨て）

学期毎の GPA は、**各学期で履修登録した全科目**が、累積 GPA は**入学以降に履修登録した全科目**が対象となる。したがって、履修登録はしたものの実際に受講しなかった科目については、評価が不合格となり、GP＝0 として計算に用いられる。そのため、履修登録は行ったものの、その後、履修を中止にした場合には、必ず指定された科目登録の修正期間内に登録を削除しなければならない。ただし、集中講義などの講義日程が修正期間内に決定されていないものの中止については、講義日程確定後、直ちに教育学部教務・学生支援係にて手続きを行うこと。いずれにしても、無計画な履修登録は自身の GPA を引き下げることとなるので、十分に注意すること。

## 【3】各コースにおける専攻の種類と取得する教育職員(教員)免許状

各コース・専攻では、卒業要件にしたがって取得する教員免許状の種類が決まる。各コース・専攻において取得する免許種は次の通りである。

### A　小中一貫教育コース

#### 小学校主免専攻

小学校主免専攻（小主免専攻）では、小学校教諭 1 種免許を取得する。併せて、「各教科（国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語)」からいずれか 1 つを専修とし、専修とした教科の中学校教諭 2 種免許を取得する。専修については、以下の方針に従って決定する。

① 入学直後に実施される専修選択に関するガイダンスをうけ、希望する専修の授業科目を 1 年次前学期から履修する。なお専修とする教科の選択においては、大学教育支援教員〔希望する教科によって：文系（国語、社会、英語)、理系（数学、理科、技術)、芸保・生活系（音楽、美術、保健体育、家庭）に分かれる〕とよく相談すること。

② 1 年次前学期の段階で専修を明確に決定できないうちは、複数の専修の授業科目（ただし、1 年次前学期の配当科目）を受講して、最終的に専修を選択する。

③ 自己の専修を 1 年次前学期の終わりまでに正式に決定する。

④ 各教科に受入上限の定数があるため希望する教科を選択できない場合がある。

#### 中学校主免専攻

中学校主免専攻（中主免専攻）では、「各教科（国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語)」からいずれか 1 つを専修とし、専修とした教科の中学校教諭 1 種免許を取得する。併せて、小学校教諭 2 種免許を取得する。専修については、以下の方針に従って決定する。

入学手続き時に提出した専修の授業科目を 1 年次前学期から履修する。なお科目の履修に関しては、大学教育支援教員〔希望する教科によって：文系（国語、社会、英語)、理系（数学、理科、技術)、芸保・生活系（音楽、美術、保健体育、家庭）に分かれる〕とよく相談すること。ただし、学校推薦型選抜及び総合型選抜により入学した学生は、志願時に選択した教科を専修とする。

### B　教職実践基礎コース

教職実践基礎専攻の 1 専攻である。小学校教諭 1 種免許を取得する。

### C　発達支援教育コース

#### 子ども理解専攻

子ども理解専攻では、小学校教諭 1 種免許及び幼稚園教諭 1 種免許を取得する。

#### 特別支援教育専攻

特別支援教育専攻では、小学校教諭 1 種免許及び特別支援学校教諭 1 種免許を取得する。なお、本学で取得することのできる特別支援学校教諭 1 種免許の領域は、知的障害者・肢体不自由者・病弱者に関する領域である。(※以後領域については、「知的障害・肢体不自由・病弱」と表示する。)

## 【4】履修基準

各コース・専攻において、卒業に必要な単位修得における履修基準は以下のとおりである。

**表 4-4-1　各コース・専攻における履修基準（卒業所要単位数）**

| コース・専攻 ＼ 科　目 | | 小中一貫教育コース | | 教職実践基礎コース | 発達支援教育コース | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 小主免専攻 | 中主免専攻 | 教職実践基礎専攻 | 子ども理解専攻 | 特別支援教育専攻 |
| 基礎教育科目 | | 36 | 36 | 36 | 36 | 36 |
| 専門教育科目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（小学校免許用） | 41 | 16 | 41 | 40 | 32 |
| | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校免許用） | 18 | 40 | | | |
| | 教育の基礎的理解に関する科目 | 10 | 10 | 10 | 8 | 10 |
| | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 |
| | 教育実践に関する科目 | 11 | 11 | 10 | 7 | 7 |
| | 大学が独自に設定する科目 | 4 | 6 | 4 | 4 | 4 |
| | コース・専攻専門科目 | 2 | 3 | 21 | 27 | 2 |
| | 特別支援教育に関する科目 | | | | | 31 |
| | 卒業論文 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 |
| 計 | | 137 | 137 | 137 | 137 | 137 |

## 【5】免許法等に係る基礎教育科目の履修について

基礎教育科目については全学共通となっているので、前記 107 頁～132 頁を参照すること。
教育学部の学生は、免許法（「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6」による）等に従い以下の 14 単位を含む計 36 単位以上を修得すること。

- 導入科目に属する情報・数量スキル科目群の「情報・数量スキル(2 単位)」。
- 導入科目に属する外国語コミュニケーション科目群の「英語 Eb1・2(計 4 単位)」。
- 導入科目に属する保健体育科目群の「スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ(計 2 単位)」。
- 導入科目に属する専門基礎科目群の「教職入門（2 単位）」、「特別支援教育入門（2 単位）」、「教職キャリア教育（2 単位）」。
- 学士力発展科目に属する「日本国憲法(2 単位)」。

## 【6】専門教育科目の履修について

**※専門教育科目は、配当年次で指定された年次・学期またはそれ以降に履修しなければならない。**

表 4-4-1 の専門教育科目については、開講されている授業科目、その単位数、配当年次、授業担当教員が、**【7】専門教育科目表**に、コース及び専攻別に分類番号（以下、「分類」と呼ぶ）とともに示されている。履修に際しては次の点に留意すること。

**小中一貫教育コース 小学校主免専攻**

**１　「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位修得について**

以下のように計 59 単位以上を修得する。

(1-1) 分類 1 の「教科に関する専門的事項」から、単位数に○印を付した科目をすべて履修し、20 単位を修得する。

(1-2) 分類 1 の「教科に関する専門的事項」の「初等理科実験Ａ」と「初等理科実験Ｂ」のどちらか指定された 1 単位を修得する。

(1-3) 分類 1 の「教科の指導法に関する科目」から、単位数に○印を付した科目をすべて履修し、20 単位を修得する。

(1-4) 各自が専修とする教科の専門科目表（中主免専攻専門科目：分類 3～12）の「教科に関する専門的事項」から★印を付した科目のすべてを含めて計 14 単位以上を修得する。

(1-5) 各自が専修とする教科の専門科目表（中主免専攻専門科目：分類 3～12）の「教科の指導法に関する科目」から★印を付した科目のすべてを含めて計 4 単位以上を修得する。

**２　「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」の単位修得について**

以下のように計 32 単位を修得する。

(2-1) 分類 2 の科目区分Ｂ「教育の基礎的理解に関する科目」をすべて履修し 10 単位を修得する。

(2-2) 分類 2 の科目区分Ｂ「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」をすべて履修し 11 単位を修得する。

(2-3) 分類 2 の科目区分Ｂ「教育実践に関する科目」をすべて履修し 10 単位を修得する。

(2-4) 分類 13 の科目区分Ｂ「教育実践に関する科目」のうち★印を付した「教育実習基礎研究（中高）」1 単位を修得する。

**３　「大学が独自に設定する科目」の単位修得について**

分類 18 の科目区分Ａ「課程共通必修科目」の「介護体験」、「教育フィールド体験」（設定された５つの体験学習から１つを選択）、「人権同和教育」を履修し 4 単位を修得する。

**４　専攻専門科目の単位修得について**

以下の科目の中から 2 単位以上修得する。

(4-1) 各自が専修とする教科の専門科目表（分類 3～12）から、(1-4)で選んだ科目と重ならない「教科に関する専門的事項」及び「大学が独自に設定する科目」の科目。

(4-2) 分類 18 の科目区分Ａの「課程共通選択科目」の科目。これらの単位は、小学校教諭免許もしくは中学校教諭免許の「大学が独自に設定する科目」の単位として認定される。

**５　卒業論文の単位修得について**

「卒業論文」については、以下のように 4 単位を修得する。

(5-1) 卒業論文の単位修得にあたっては、所属する専修の授業科目の担当教員の中から指導教員を選び、その指導のもとに卒業論文（作品）を作成すること。ただし、事情によっては、関

係する教員の協議と教務委員会の了承を経て、上記以外の教員を指導教員として選ぶことが認められる場合がある。

(5-2) 2年次の1月末日までに指導教員届を教務・学生支援係に提出する。

(5-3) 受講科目の登録は4年次前学期に行う。

(5-4) 4年次の5月10日までに卒業論文題目届を教務・学生支援係に提出する。

(5-5) 卒業論文の提出期限は1月末日午後5時、当日が休業日の場合は次の平日の午後5時までとし、教務・学生支援係に提出する。

(5-6) 卒業論文の審査にあたっては、試問等が行われることがある。

**小中一貫教育コース 中学校主免専攻**

**１　「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位修得について**

以下のように計56単位を修得する。

(1-1) 各自が専修とする教科の専門科目表（中主免専攻専門科目：分類3～12）の「教科に関する専門的事項」から、単位数に○印を付した科目のすべてを含む30単位を修得する。

(1-2) 各自が専修とする教科の専門科目表（中主免専攻専門科目：分類3～12）の「教科の指導法に関する科目」から、単位数に○印を付した科目をすべて履修し計8単位を修得する。

(1-3) 各自が専修とする教科の専門科目表（中主免専攻専門科目：分類3～12）の「教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目」の2単位を修得する。

(1-4) 分類1の「教科に関する専門的事項」の★印を付した科目を2科目選択し4単位修得する。

(1-5) 分類1の「教科の指導法に関する科目」の★印を付した科目のうち6教科（ただし、「音楽」・「図工」・「体育」から2教科を必ず含める）を選択し、それぞれ2単位、計12単位を修得する。

**２　「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」の単位修得について**

以下のように計32単位を修得する。

(2-1) 分類13の科目区分Ｂ「教育の基礎的理解に関する科目」をすべて履修し8単位を修得する。

(2-2) 分類13の科目区分Ｂ「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」をすべて履修し11単位を修得する。

(2-3) 分類13の科目区分Ｂ「教育実践に関する科目」をすべて履修し10単位を修得する。

(2-4) 分類2の＃印を付した「小中一貫教育の理論と実践」、「教育実習基礎研究（幼小）」を履修し3単位を修得する。

**３　「大学が独自に設定する科目」の単位修得について**

以下のように計6単位を修得する。

(3-1) 分類18の科目区分Ａ「課程共通必修科目」の「介護体験」、「教育フィールド体験」（設定された5つの体験学習から１つを選択）、「人権同和教育」を履修し4単位を修得する。

(3-2) 分類 3～12 の科目区分Ｂの「大学が独自に設定する科目」から各自が専修とする教科を選択し 2 単位を修得する。

**４　専攻専門科目の単位修得について**

以下の科目の中から 3 単位以上修得する。

(4-1) 各自が専修とする教科の専門科目表（分類 3～12）から、(1-1)で選んだ科目と重ならない「教科に関する専門的事項」の科目。これらの単位は、中学校教諭免許の「大学が独自に設定する科目」の単位として認定される。

(4-2) 分類 1 の★印を付した科目から、(1-4) で選んだ科目と重ならない「教科に関する専門的事項」の科目。これらの単位は、小学校教諭免許の「教科に関する専門的事項」の単位として認定される。

(4-3) 分類 2 の★印を付した科目から、(1-5) で選んだ科目と重ならない「教科の指導法に関する科目」の科目。これらの単位は、小学校教諭免許の「教科の指導法に関する科目」の単位として認定される。

(4-4) 分類 18 の科目区分Ａの「課程共通選択科目」の科目。これらの単位は、小学校教諭免許もしくは中学校教諭免許の「大学が独自に設定する科目」の単位として認定される。

**５　卒業論文の単位修得について**

「卒業論文」については、以下のように 4 単位を修得する。

(5-1) 卒業論文の単位修得にあたっては、所属する専修の授業科目の担当教員の中から指導教員を選び、その指導のもとに卒業論文（作品）を作成すること。ただし、事情によっては、関係する教員の協議と教務委員会の了承を経て、上記以外の教員を指導教員として選ぶことが認められる場合がある。

(5-2) 2 年次の 1 月末日までに指導教員届を教務・学生支援係に提出する。

(5-3) 受講科目の登録は4年次前学期に行う。

(5-4) 4 年次の 5 月 10 日までに卒業論文題目届を教務・学生支援係に提出する。

(5-5) 卒業論文の提出期限は 1 月末日午後 5 時、当日が休業日の場合は次の平日の午後 5 時までとし、教務・学生支援係に提出する。

(5-6) 卒業論文の審査にあたっては、試問等が行われることがある。

**教職実践基礎コース 教職実践基礎専攻**

**１　「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位修得について**

以下のように計 41 単位を修得する。

(1-1) 分類 1 の「教科に関する専門的事項」から、単位数に○印を付した科目をすべて履修し、20 単位を修得する。

(1-2) 分類 1 の「教科に関する専門的事項」の「初等理科実験Ａ」と「初等理科実験Ｂ」のどちらか指定された 1 単位を修得する。

(1-3) 分類 1 の「教科の指導法に関する科目」から、単位数に○印を付した科目をすべて履修し、20 単位を修得する。

**２　「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」の単位修得について**

以下のように計 31 単位を修得する。

(2-1) 分類 2 の科目区分Ｂ「教育の基礎的理解に関する科目」をすべて履修し 10 単位を修得する。

(2-2) 分類 2 の科目区分Ｂ「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」をすべて履修し 11 単位を修得する。

(2-3) 分類 2 の科目区分Ｂ「教育実践に関する科目」をすべて履修し 10 単位を修得する。

**３　「大学が独自に設定する科目」の単位修得について**

分類 18 の科目区分Ａ「課程共通必修科目」の「介護体験」、「教育フィールド体験」(設定された５つの体験学習から１つを選択)、「人権同和教育」を履修し 4 単位を修得する。

**４　コース・専攻専門科目の単位修得について**

分類 14 から単位に○印を付した必修科目すべてを含めて計 21 単位以上を修得する。

**５　卒業論文の単位修得について**

「卒業論文」については、以下のように 4 単位を修得する。

(5-1) 卒業論文の単位修得にあたっては、教職実践基礎コース専門科目の担当教員の中から指導教員を選び、その指導のもとに卒業論文を作成すること。ただし、事情によっては、関係する教員の協議と教務委員会の了承を経て、上記以外の教員を指導教員として選ぶことが認められる場合がある。

(5-2) 2 年次の 1 月末日までに指導教員届を教務・学生支援係に提出する。

(5-3) 受講科目の登録は4年次前学期に行う。

(5-4) 4 年次の 5 月 10 日までに卒業論文題目届を教務・学生支援係に提出する。

(5-5) 卒業論文の提出期限は 1 月末日午後 5 時、当日が休業日の場合は次の平日の午後 5 時までとし、教務・学生支援係に提出する。

(5-6) 卒業論文の審査にあたっては、試問等が行われることがある。

**<u>発達支援教育コース 子ども理解専攻</u>**

**１　「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位修得について**

以下のように計 40 単位を修得する。

(1-1) 分類 1 の「教科に関する専門的事項」から、単位数に○印を付した科目をすべて履修し、20 単位を修得する。

(1-2) 分類 1 の「教科の指導法に関する科目」から、単位数に○印を付した科目をすべて履修し、20 単位を修得する。

## ２　「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」の単位修得について

以下のように計 26 単位を修得する。

(2-1) 分類 2 の科目区分Ｂ「教育の基礎的理解に関する科目」から「小中一貫教育の理論と実践」以外のすべてを履修し 8 単位を修得する。

(2-2) 分類 2 の科目区分Ｂ「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」をすべて履修し 11 単位を修得する。

(2-3) 分類 2 の科目区分Ｂ「教育実践に関する科目」から「教育実習Ⅲ」、「教育実習Ⅳ」以外のすべてを履修し、7 単位を修得する。(なお「教育実習Ⅳ」を履修する場合がある。(4-4)参照。)

## ３　「大学が独自に設定する科目」の単位修得について

分類 18 の科目区分Ａ「課程共通必修科目」の「介護体験」、「教育フィールド体験」(設定された５つの体験学習から１つを選択)、「人権同和教育」を履修し 4 単位を修得する。

## ４　コース・専攻専門科目の単位修得について

以下のように計 27 単位以上を修得する。

(4-1) 分類 15 の「子どもの発達と教育支援」を 2 単位修得する。

(4-2) 分類 16 の科目区分Ｂ「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「大学が独自に設定する科目」の科目から○印を付した科目すべてを含めて計 10 単位以上を修得する。

(4-3) 分類 16 の科目区分Ｂ「幼稚園教育」の「保育内容の指導法」の○印を付したすべての科目と「幼児の理解と教育相談」の合計 12 単位を修得する。

(4-4) 分類 16 の「幼稚園観察実習」の 1 単位、及び分類 16 の「幼稚園教育実習」もしくは分類 2 の「教育実習Ⅳ」のいずれかを選択し 2 単位を修得する。

## ５　卒業論文の単位修得について

「卒業論文」については、以下のように 4 単位を修得する。

(5-1) 卒業論文の単位修得にあたっては、発達支援教育コース子ども理解専攻専門科目の担当教員の中から指導教員を選び、その指導のもとに卒業論文を作成すること。ただし、事情によっては、関係する教員の協議と教務委員会の了承を経て、上記以外の教員を指導教員として選ぶことが認められる場合がある。

(5-2) 2 年次の 1 月末日までに指導教員届を教務・学生支援係に提出する。

(5-3) 受講科目の登録は4年次前学期に行う。

(5-4) 4 年次の 5 月 10 日までに卒業論文題目届を教務・学生支援係に提出する。

(5-5) 卒業論文の提出期限は 1 月末日午後 5 時、当日が休業日の場合は次の平日の午後 5 時までとし、教務・学生支援係に提出する。

(5-6) 卒業論文の審査にあたっては、試問等が行われることがある。

**発達支援教育コース 特別支援教育専攻**

**１　「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位修得について**

以下のように計 32 単位以上を修得する。

(1-1) 分類 1 の「教科に関する専門的事項」の★印を付した科目を 6 科目以上選択し、計 12 単位以上を修得する。

(1-2) 分類 1 の「教科の指導法に関する科目」から、単位数に○印を付した科目をすべて履修し、20 単位を修得する。

**２　「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」の単位修得について**

以下のように計 28 単位を修得する。

(2-1) 分類 2 の科目区分Ｂ「教育の基礎的理解に関する科目」をすべて履修し 10 単位を修得する。

(2-2) 分類 2 の科目区分Ｂ「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」をすべて履修し 11 単位を修得する。

(2-3) 分類 2 の科目区分Ｂ「教育実践に関する科目」から「教育実習Ⅲ」、「教育実習Ⅳ」以外のすべてを履修し、7 単位を修得する。

**３　「大学が独自に設定する科目」の単位修得について**

分類 18 の科目区分Ａ「課程共通必修科目」の「介護体験」、「教育フィールド体験」（設定された５つの体験学習から１つを選択）、「人権同和教育」を履修し 4 単位を修得する。

**４　コース科目及び専攻科目（特別支援教育に関する科目）の単位修得について**

以下のように計 33 単位以上を修得する。

(4-1) 分類 15 の「子どもの発達と教育支援」を 2 単位修得する。

(4-2) 分類 17 から単位数に○印を付した科目のすべてを含めて計 31 単位以上を修得する。

**５　卒業論文の単位修得について**

「卒業論文」については、以下のように 4 単位を修得する。

(5-1) 卒業論文の単位修得にあたっては、発達支援教育コース特別支援教育専攻専門科目の担当教員の中から指導教員を選び、その指導のもとに卒業論文を作成すること。ただし、事情によっては、関係する教員の協議と教務委員会の了承を経て、上記以外の教員を指導教員として選ぶことが認められる場合がある。

(5-2) 2 年次の 1 月末日までに指導教員届を教務・学生支援係に提出する。

(5-3) 受講科目の登録は4年次前学期に行う。

(5-4) 4 年次の 5 月 10 日までに卒業論文題目届を教務・学生支援係に提出する。

(5-5) 卒業論文の提出期限は 1 月末日午後 5 時、当日が休業日の場合は次の平日の午後 5 時までとし、教務・学生支援係に提出する。

(5-6) 卒業論文の審査にあたっては、試問等が行われることがある。

## 【7】専門教育科目表

次頁以降に開講されている専門の授業科目、その単位数、配当年次、授業担当教員について、コース及び専攻別に示されている。履修に際しては次の点に留意すること。

1) 科目表の単位欄の「必修」・「選択」は該当コースを専攻とする者にとっての区別である。単位欄及び各配当年次欄の単位数に○印がついている授業科目は必修である。
2) 授業科目の★印及び♯印は主に 2 種免許取得に必要な科目を表す。履修方法については**「【6】専門教育科目の履修について」**を参照すること。また、♦印の科目については、本学卒業の単位にはなるが、教員免許取得のための単位にはならないことを表す。
3) 科目表の区別欄の「コ」「エ」「ジ」は、それぞれ講義、演習、実験あるいは実習の授業形態を示す。
4) 同一の授業科目で、同一年次の前学期、後学期に各 2 単位ずつ（あるいは 1 単位ずつ）分けて開講されている科目については、前学期、後学期の順に履修することを原則とする。

専門科目表内にある「関連能力」と記載された列には、各授業科目が以下の表に示すどの能力と関係するかを記号で表している。各項目の詳細については【1】ディプロマ・ポリシーを参照せよ。

| 記号 | 中項目 | 記号 | 中項目 |
|---|---|---|---|
| A | 使命感・倫理観 | J | 総合的な教育実践力 |
| B | チームワーク | K | 文化・社会・自然・地域の理解 |
| C | 個と多様性の尊重 | L | （専門知識・理解・技能）<br>教育の基礎理論に関する知識 |
| D | 主体的に学ぶ力 | | |
| E | 言語リテラシー | M | （専門知識・理解・技能）<br>教科等の内容に関する知識・技能 |
| F | 児童・生徒理解 | | |
| G | 生徒指導・学級経営 | N | （専門知識・理解・技能）<br>教科等の指導法に関する知識・実践力 |
| H | 情報リテラシー | | |
| I | 課題解決力 | | |

専門科目表内にある「教育方法」と記載された列には、各授業科目が以下の表に示すどの教育方法を取り入れているかを数字で表している。なお、記載された教育方法は、毎回の授業に取り入れられているものに限らず、一部の授業のみに取り入れられているものも含む。また、教育方法の種類や授業への取り入れられ方は、今後の見直しなどにより、変更されることがある。

| 記号 | 項目 |
|---|---|
| 1 | 少人数（10 人程度） |
| 2 | 双方向（対話・討論） |
| 3 | グループワーク |
| 4 | フィールド型 |
| 5 | メディア活用 |
| 6 | TA 活用 |

## 小中一貫教育コース　小主免専攻専門科目(小学校免許取得関連科目)

| 分類 | 科目区分 A | 科目区分 B | 科目区分 C | 記号 | 授業科目 | 区別 | 単位 必修 | 単位 選択 | 配当年次 | 1年次 前 | 1年次 後 | 2年次 前 | 2年次 後 | 3年次 前 | 3年次 後 | 4年次 前 | 4年次 後 | 関連能力 | 教育方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 小学校教育専門科目 | 教科及び教科の指導法に関する科目 | 教科に関する専門的事項 | ★ | 国語(書写を含む。) | コ | ② | | 1後 | | ② | | | | | | | M | 3,5,6 | 山元・塚本・中村(佳)・中野 |
| | | | | ★ | 社会 | コ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | M | | 中村(周)・大平・関・中堀・柏葉 |
| | | | | ★ | 算数 | コ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | M | 5,6 | 藤井（良）・添田 |
| | | | | ★ | 理科 | コ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | M | 2,3,4 | 秋山・下村・中林・有井・八ツ橋・西田・山北 |
| | | | | ★ | 生活 | コ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | M | 2,3,4 | 生活科運営委員会 |
| | | | | ★ | 音楽 | コ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | M | 2,3 | 阪本・藤本(い)・浦 |
| | | | | ★ | 図工 | コ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | M | 2 | 大泉・大野 |
| | | | | ★ | 体育 | コ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | M | 2,3 | 宇土・塩瀬 |
| | | | | ★ | 家庭 | コ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | M | 5 | 篠原・大矢・米村・教育学部所属教員 |
| | | | | ★ | 小学校英語 | コ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | M | 2,3 | 村端　五郎 |
| | | | | ☆ | 初等理科実験A | ジ | | 1 | 3前 | | | | | 1 | | | | M | 2,3 | 秋山・下村・八ツ橋・西田 |
| | | | | ☆ | 初等理科実験B | ジ | | 1 | 3後 | | | | | | 1 | | | M | 2,3 | 中林・有井・山北 |
| | | | 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | ★ | 初等国語科教育法Ⅰ | エ | ① | | 3前 | | | | | ① | | | | N | 2,3 | 中野・永吉 |
| | | | | ★ | 初等国語科教育法Ⅱ | エ | ① | | 3後 | | | | | | ① | | | N | 2,3 | 中野・永吉 |
| | | | | ★ | 初等社会科教育法Ⅰ | エ | ① | | 3前 | | | | | ① | | | | N | 2,6 | 吉村・藤本(将) |
| | | | | ★ | 初等社会科教育法Ⅱ | エ | ① | | 3後 | | | | | | ① | | | N | 2,6 | 吉村・藤本(将) |
| | | | | ★ | 算数科教育法Ⅰ | エ | ① | | 3前 | | | | | ① | | | | N | 2,3,5 | 添田・木根 |
| | | | | ★ | 算数科教育法Ⅱ | エ | ① | | 3後 | | | | | | ① | | | N | 2,3,5 | 添田・木根 |
| | | | | ★ | 初等理科教育法Ⅰ | エ | ① | | 3前 | | | | | ① | | | | N | 2,3,5,6 | 野添・中山 |
| | | | | ★ | 初等理科教育法Ⅱ | エ | ① | | 3後 | | | | | | ① | | | N | 2,3,5,6 | 中山・野添 |
| | | | | ★ | 生活科教育法 | コ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | N | 2,3,5 | 生活科運営委員会 |
| | | | | ★ | 初等音楽科教育法Ⅰ | エ | ① | | 3前 | | | | | ① | | | | N | 2,3,5,6 | 菅・酒井 |
| | | | | ★ | 初等音楽科教育法Ⅱ | エ | ① | | 3後 | | | | | | ① | | | N | 2,3,5,6 | 菅・酒井 |
| | | | | ★ | 図工科教育法Ⅰ | エ | ① | | 3前 | | | | | ① | | | | N | 2,3,5 | 樺島・幸 |
| | | | | ★ | 図工科教育法Ⅱ | エ | ① | | 3後 | | | | | | ① | | | N | 2,3,5 | 樺島・幸 |
| | | | | ★ | 体育科教育法Ⅰ | エ | ① | | 3前 | | | | | ① | | | | N | 3,5 | 日髙・三輪 |
| | | | | ★ | 体育科教育法Ⅱ | エ | ① | | 3後 | | | | | | ① | | | N | 3,5 | 日髙・三輪 |
| | | | | ★ | 初等家庭科教育法Ⅰ | エ | ① | | 3前 | | | | | ① | | | | N | 2,3,5 | 伊波・大矢 |
| | | | | ★ | 初等家庭科教育法Ⅱ | エ | ① | | 3後 | | | | | | ① | | | N | 2,3,4,5 | 伊波・大矢 |
| | | | | ★ | 初等英語教育法Ⅰ | エ | ① | | 3前 | | | | | ① | | | | N | 2,3,4,5 | 影浦・興津 |
| | | | | ★ | 初等英語教育法Ⅱ | エ | ① | | 3後 | | | | | | ① | | | N | 2,3,4,5 | 影浦・興津 |
| | 修得すべき単位数 | | | | | | 40 | 1 | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 小学校教育専門科目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | 教育の理念 | | 教育本質論 | コ | ② | | 1前 | ② | | | | | | | | L | 2 | 深見　奨平 |
| | | | 心身の発達 | ♧ | 学校教育心理学 | コ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | F | 2,3,5 | 尾之上　高哉 |
| | | | 教育制度 | | 教育制度論 | コ | ② | | 1後 | | ② | | | | | | | L | 5 | 湯田　拓史 |
| | | | 教育課程 | | 教育課程論 | コ | ② | | 1後 | | ② | | | | | | | N | 2,3,5 | 遠藤　宏美 |
| | | | | ＃ | 小中一貫教育の理論と実践 | コ | ② | | 3後 | | | | | | ② | | | N | 2,3,5 | 遠藤・深見・永吉・吉村・添田・中山・酒井・幸・三輪・藤元・伊波・藤本(将) |
| | | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | 道徳の理論 | | 道徳教育論 | コ | ② | | 3前 | | | | | ② | | | | N | 2,3 | 椋木　香子 |
| | | | 総合的な学習 | | 総合的な学習の時間の指導法 | コ | ① | | 3前 | | | | | ① | | | | N | | 遠藤・吉村 |
| | | | 特別活動 | | 特別活動論 | コ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | G | 2,3,5 | 盛満　弥生 |
| | | | 教育の方法 | | 教育の方法と技術(情報機器及び教材の活用を含む。) | コ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | N | 2,5,6 | 竹内・小林 |
| | | | 生徒指導 | | 生徒指導概論<br>(進路指導を含む。) | コ | ② | | 3後 | | | | | | ② | | | G | 2 | 髙橋　高人 |
| | | | 教育相談 | | 教育相談(カウンセリングの基礎的知識を含む。) | コ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | G | 2 | 境　泉洋 |
| | | 教育実践に関する科目 | 教育実習 | | 教育実習Ⅰ | ジ | ① | | 2前 | | | ① | | | | | | J | 2,3,4 | 教育実習運営委員会 |
| | | | | | 教育実習Ⅱ | ジ | ③ | | 3前 | | | | | ③ | | | | J | 2,3,4 | 教育実習運営委員会 |
| | | | | | 教育実習Ⅲ | ジ | ① | | 3後 | | | | | | ① | | | J | 2,3,4 | 教育実習運営委員会 |
| | | | | | 教育実習Ⅳ | ジ | ② | | 4前 | | | | | | | ② | | J | 2,3,4 | 教育実習運営委員会 |
| | | | | ＃ | 教育実習基礎研究(幼小) | ジ | ① | | 3前 | | | | | ① | | | | J | 2,3,6 | 竹内　元 |
| | | | 教職実践演習 | | 教職実践演習(幼小中高) | エ | ② | | 4後 | | | | | | | | ② | D,I | 2,3,4 | 学校教育課程全教員 |
| | 修得すべき単位数 | | | | | | 31 | | | | | | | | | | | | | |

＊ 小主免専攻及び教職実践基礎コースは分類１の☆印を付した科目「初等理科実験Ａ」又は「初等理科実験Ｂ」から１科目（１単位）を選択必修とする。

＊ 中主免専攻は分類１「教科に関する専門的事項」の★印を付した科目を2科目以上選択し4単位修得する。

＊ 中主免専攻は分類１「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」の★印を付した科目のうち６教科以上(ただし、「音楽」・「図工」・「体育」の中の2教科を必ず含める)を選択し、それぞれ2単位以上計12単位以上を修得する。

＊ 中主免専攻は分類２の＃印を付した「小中一貫教育の理論と実践」「教育実習基礎研究（幼小）」を必修とし、3単位を修得する。

＊ 科目の担当教員は変更になる可能性があります。

※ 准学校心理士の資格を取得する場合、♧印を付した科目を履修すること。

## 小中一貫教育コース　中主免専攻専門科目(国語専修)

| 分類 | 科目区分 A | 科目区分 B | 科目区分 C | 記号 | 授業科目 | 区別 | 単位 必修 | 単位 選択 | 配当年次 | 1年次 前 | 1年次 後 | 2年次 前 | 2年次 後 | 3年次 前 | 3年次 後 | 4年次 前 | 4年次 後 | 関連能力 | 教育方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 小中一貫教育コース（国語科）専門科目 | 教科に関する専門的事項 | 国語学 | ★ | 国語学Ⅰ(音声言語及び文章表現に関するものを含む。) | コ | ② | | 1前 | ② | | | | | | | | M | 2,3,5 | 塚本　泰造 |
| | | | | | 国語学Ⅱ | コ | ② | | 1後 | | ② | | | | | | | M | 2,3,4,5 | 塚本　泰造 |
| | | | | | 国語学Ⅲ | コ | | 2 | 3後 | | | | | | 2 | | | M | 2,3,5 | 塚本　泰造 |
| | | | | | 国語学演習Ⅰ | エ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | M | 2 | 塚本　泰造 |
| | | | | | 国語学演習Ⅱ | エ | | 2 | 3後 | | | | | | 2 | | | M | 2 | 塚本　泰造 |
| | | | 国文学 | ★ | 国文学講義Ⅰ | コ | ② | | 1前 | ② | | | | | | | | M | 2,5 | 中村　佳文 |
| | | | | | 国文学講義Ⅱ | コ | ② | | 1後 | | ② | | | | | | | M | 2 | 教育学部所属教員 |
| | | | | | 国文学講義Ⅲ | コ | | 2 | 2前 | | | 2 | | | | | | M | 2,5 | 中村　佳文 |
| | | | | ★◎ | 国文学演習Ⅰ | エ | ② | | 1前 | ② | | | | | | | | M | 2,3 | 教育学部所属教員 |
| | | | | | 国文学演習Ⅱ | エ | ② | | 1後 | | ② | | | | | | | M | 2 | 教育学部所属教員 |
| | | | | | 国文学演習Ⅲ | エ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | M | 2,3,5 | 中村　佳文 |
| | | | | ★ | 国文学史Ⅰ | コ | ② | | 1前 | ② | | | | | | | | M | 2,5 | 中村　佳文 |
| | | | | ○ | 国文学史Ⅱ | コ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | M | 2 | 教育学部所属教員 |
| | | | | | 国文学史Ⅲ | コ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | M | 2,5 | 中村　佳文 |
| | | | 漢文学 | ★ | 漢文学Ⅰ | コ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | M | 2 | 山元　宣宏 |
| | | | | | 漢文学Ⅱ | コ | | 2 | 2後 | | | | 2 | | | | | M | 2 | 山元　宣宏 |
| | | | | | 漢文学演習Ⅰ | エ | ② | | 3前 | | | | | ② | | | | M | 2 | 山元　宣宏 |
| | | | | | 漢文学演習Ⅱ | エ | | 2 | 3後 | | | | | | 2 | | | M | 2 | 山元　宣宏 |
| | | | 書道 | ★ | 書写技法 | エ | ② | | 1後 | | ② | | | | | | | M | 2 | 山元　宣宏 |
| | | | | | 書式技法 | エ | ② | | 3前 | | | | | ② | | | | M | 2 | 山元　宣宏 |
| | | 修得すべき単位数 | | | | | 30 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 各教科の指導法 | 国語 | ★ | 中等国語科教育法Ⅰ | コ | ② | | 3前 | | | | | ② | | | | N | 2,3 | 中野 登志美 |
| | | | | | 中等国語科教育法Ⅱ | コ | ② | | 3前 | | | | | ② | | | | N | 2,3,5 | 永吉　寛行 |
| | | | | ★ | 中等国語科教育法Ⅲ | コ | ② | | 3後 | | | | | | ② | | | N | 2,3,5 | 永吉　寛行 |
| | | | | | 国語科教育法基礎 | エ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | N | 2,3,5 | 中村(佳)・永吉 |
| | | 複数の事項を合わせた科目 | | | 国語科教育実践研究 | エ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | N | 2,3 | 山元・中野 |
| | | 大学が独自に設定する科目 | | | 小中一貫授業研究（国語） | コ | ② | | 3後 | | | | | | ② | | | N | 2,3,4 | 中野　登志美 |
| | | 修得すべき単位数 | | | | | 12 | | | | | | | | | | | | | |

＊ 小主免専攻は、★印の科目を必修とする。
＊ ○印は奇数年度、◎印は偶数年度に開講される科目を表す。
＊ 科目区分書「書道」の科目については、高等学校教諭免許状取得に必要な単位として認定されない。
＊ 科目の担当教員は変更になる可能性があります。

## 小中一貫教育コース　中主免専攻専門科目(社会専修)

| 分類 | 科目区分 A | 科目区分 B | 科目区分 C | 記号 | 授業科目 | 区別 | 単位 必修 | 単位 選択 | 配当年次 | 1年次 前 | 1年次 後 | 2年次 前 | 2年次 後 | 3年次 前 | 3年次 後 | 4年次 前 | 4年次 後 | 関連能力 | 教育方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 小中一貫教育コース（社会科）専門科目 | 教科に関する専門的事項 | 日本史外国史 | ★ | 日本史概論 | コ | ② | | 1前 | ② | | | | | | | | M | 1,2 | 関　周一 |
| | | | | | 日本史特論 | コ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | M | 1,2 | 関　周一 |
| | | | | | 日本史講読 | コエ | | 2 | 2前 | | | 2 | | | | | | M | 1,2 | 関　周一 |
| | | | | | 史料学 | コ | | 2 | 2後 | | | | 2 | | | | | M | 1,2 | 関・中堀 |
| | | | | △ | 日本史演習Ⅰ | エ | | 2 | 3前 | | | | | 2 | | | | M | 1,2 | 関　周一 |
| | | | | | 日本史演習Ⅱ | エ | | 2 | 3後 | | | | | | 2 | | | M | 1,2 | 関　周一 |
| | | | | ★ | 外国史概論 | コ | ② | | 1後 | | ② | | | | | | | M | 1,2 | 中堀　博司 |
| | | | | ◆ | 外国史特論A | コ | | 2 | 2前 | | | 2 | | | | | | M | 1,2 | 中堀　博司 |
| | | | | ○◆ | 外国史特論B | コ | | 2 | 2後 | | | | 2 | | | | | M | 1,2 | 教育学部所属教員 |
| | | | | | 外国史講読 | コエ | | 2 | 2後 | | | | 2 | | | | | M | 1,2 | 中堀　博司 |
| | | | | △ | 外国史演習Ⅰ | エ | | 2 | 3前 | | | | | 2 | | | | M | 1,2 | 中堀　博司 |
| | | | | | 外国史演習Ⅱ | エ | | 2 | 3後 | | | | | | 2 | | | M | 1,2 | 中堀　博司 |
| | | | 地理学 | ★ | 地理学概論(地誌を含む。) | コ | ② | | 1後 | | ② | | | | | | | M | 2,5 | 大平　明夫 |
| | | | | | 自然地理学概論 | コ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | M | 2,5 | 大平　明夫 |
| | | | | ◆ | 自然地理学特論 | コ | | 2 | 2後 | | | | 2 | | | | | M | 5 | 大平　明夫 |
| | | | | | 地理学演習 | エ | | 2 | 2前 | | | 2 | | | | | | M | 1 | 大平　明夫 |
| | | | | △ | 自然地理学演習Ⅰ | エ | | 2 | 3前 | | | | | 2 | | | | M | 1,2,4,5 | 大平　明夫 |
| | | | | | 自然地理学演習Ⅱ | エ | | 2 | 3後 | | | | | | 2 | | | M | 1,2,4,5 | 大平　明夫 |
| | | | | | 人文地理学概論 | コ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | M | 1,2 | 中村　周作 |
| | | | | ◆ | 社会地理学 | コ | | 2 | 1後 | | 2 | | | | | | | M | 1,2,4 | 中村　周作 |
| | | | | △ | 人文地理学演習Ⅰ | エ | | 2 | 3前 | | | | | 2 | | | | M | 1,2,3,4 | 中村　周作 |
| | | | | | 人文地理学演習Ⅱ | エ | | 2 | 3後 | | | | | | 2 | | | M | 1,2,3,4 | 中村　周作 |
| | | | | | 地誌学 | コ | | 2 | 3前 | | | | | 2 | | | | M | 1,2,4 | 中村　周作 |
| | | | | ◆ | 地誌学演習 | エ | | 2 | 2後 | | | | 2 | | | | | M | 1,2,3,4 | 中村　周作 |
| | | | 法律学政治学 | | 法学(国際法を含む。) | コ | ② | | 1前 | ② | | | | | | | | M | 2 | 教育学部所属教員 |
| | | | | ◆ | 民法 | コ | | 2 | 1後 | | 2 | | | | | | | M | 2,3 | 足立　文美恵 |
| | | | | ◆ | 労働法<br>(地域資源創成学部 開講科目) | コ | | 2 | 2後 | | | | 2 | | | | | M | 2,3 | 丸山　亜子<br>(地域資源創成学部) |
| | | | | ★ | 政治学(国際政治を含む。) | コ | ② | | 1前 | ② | | | | | | | | M | 2 | 松尾　隆佑 |
| | | | | | 国際関係論 | コ | | 2 | 2後 | | | | 2 | | | | | M | 2 | 松尾　隆佑 |
| | | | 社会学経済学 | | 社会学原論 | コ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | M | 2 | 教育学部所属教員 |
| | | | | ◆ | 社会学特論 | コ | | 2 | 3後 | | | | | | 2 | | | M | 2 | 教育学部所属教員 |
| | | | | ★ | 経済学原論<br>(国際経済を含む。) | コ | ② | | 1前 | ② | | | | | | | | M | 2,3,5 | 教育学部所属教員 |
| | | | | | 現代経済論 | コ | | 2 | 2前 | | | 2 | | | | | | M | 1,2,3,5 | 教育学部所属教員 |
| | | | | ◆ | 経済学特論 | コ | | 2 | 2後 | | | | 2 | | | | | M | 1,2,3 | 教育学部所属教員 |
| | | | | △ | 社会学・経済学演習Ⅰ | エ | | 2 | 3前 | | | | | 2 | | | | M | 1,2,3,4,5 | 教育学部所属教員 |
| | | | | | 社会学・経済学演習Ⅱ | エ | | 2 | 3後 | | | | | | 2 | | | M | 1,2,3,4 | 教育学部所属教員 |
| | | | 哲学倫理学宗教学 | ★ | 哲学概論 | コ | ② | | 1後 | | ② | | | | | | | M | 1,2 | 柏葉　武秀 |
| | | | | | 哲学特論 | コ | | 2 | 2前 | | | 2 | | | | | | M | 1,2 | 柏葉　武秀 |
| | | | | | 倫理学概論 | コ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | M | 1,2,3 | 柏葉　武秀 |
| | | | | | 倫理学特論 | コ | | 2 | 3前 | | | | | 2 | | | | M | 1,2 | 柏葉　武秀 |
| | | | | △ | 哲学・倫理学演習Ⅰ | エ | | 2 | 3前 | | | | | 2 | | | | M | 1,2 | 柏葉　武秀 |
| | | | | | 哲学・倫理学演習Ⅱ | エ | | 2 | 3後 | | | | | | 2 | | | M | 1,2 | 柏葉　武秀 |
| | | 修得すべき単位数 | | | | | 24 | 6 | | | | | | | | | | | | |
| | | 各教科の指導法 | 社会 | ★ | 中等社会科教育法Ⅰ | コ | ② | | 3前 | | | | | ② | | | | N | 2,3,5 | 吉村・藤本(将) |
| | | | | | 中等社会科教育法Ⅱ | コ | ② | | 3前 | | | | | ② | | | | N | 2,3,5 | 吉村・藤本(将) |
| | | | | ★ | 中等社会科教育法Ⅲ | コ | ② | | 3後 | | | | | | ② | | | N | 2,3,5 | 吉村・藤本(将) |
| | | | | | 社会科教育法基礎 | エ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | N | 2,3,5 | 吉村・藤本(将) |
| | | 複数の事項を合わせた科目 | | | 社会科教育実践研究 | エ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | N | 2,3,4,5 | 吉村・関・藤本(将) |
| | | 大学が独自に設定する科目 | | | 小中一貫授業研究（社会） | コ | ② | | 3後 | | | | | | ② | | | N | 2,3,5,6 | 吉村・藤本(将) |
| | | 修得すべき単位数 | | | | | 12 | | | | | | | | | | | | | |

＊ 小主免専攻は、★印の科目を必修とする。
＊ ◆印の科目は高等学校教諭免許状の取得に関係する科目であり、中学校教諭免許状取得に必要な単位としては算定しない。
＊ ○印は奇数年度に開講される科目を表す。
＊ △印の科目は、「日本史」「外国史」「人文地理学」「自然地理学」「社会学・経済学」「哲学・倫理学」のいずれかの領域のみ免許状取得に必要な単位として認定する。
＊ 科目の担当教員は変更になる可能性があります。

小中一貫教育コース　中主免専攻専門科目（数学専修）

| 分類 | 科目区分 A | 科目区分 B | 科目区分 C | 記号 | 授業科目 | 区別 | 単位 必修 | 単位 選択 | 配当年次 | 1年次 前 | 1年次 後 | 2年次 前 | 2年次 後 | 3年次 前 | 3年次 後 | 4年次 前 | 4年次 後 | 関連能力 | 教育方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 | 小中一貫教育コース（数学科）専門科目 | 教科に関する専門的事項 | 代数学 | ★ | 代数学入門 | コ | ② | | 1前 | ② | | | | | | | | M | 1,2,3 | 山口　尚哉 |
| | | | | | 代数学Ⅰ | コ | ② | | 1後 | | ② | | | | | | | M | 1,2,3 | 山口　尚哉 |
| | | | | | 代数学Ⅱ | コ | ② | | 3前 | | | | | ② | | | | M | 1,2,3 | 山口　尚哉 |
| | | | | ○ | 数学特論Ⅰ | エ | | 2 | 3前 | | | | | 2 | | | | M | 1,2,3 | 山口　尚哉 |
| | | | 幾何学 | ★ | 集合論 | コ | ② | | 1前 | ② | | | | | | | | M | 2,3,5 | 教育学部所属教員 |
| | | | | ★ | 幾何学入門 | コ | ② | | 1後 | | ② | | | | | | | M | 2,3,5 | 教育学部所属教員 |
| | | | | | 幾何学Ⅰ | コ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | M | 2,3,5 | 教育学部所属教員 |
| | | | | | 幾何学Ⅱ | コ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | M | 2,3,5 | 教育学部所属教員 |
| | | | | ◎ | 数学特論Ⅱ | エ | | 2 | 3前 | | | | | 2 | | | | M | 2,3,5 | 教育学部所属教員 |
| | | | 解析学 | ★ | 解析学入門 | コ | ② | | 1前 | ② | | | | | | | | M | 2,3,5 | 平山　浩之 |
| | | | | | 解析学Ⅰ | コ | ② | | 1後 | | ② | | | | | | | M | 1,2 | 平山　浩之 |
| | | | | | 解析学Ⅱ | コ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | M | 1,2,3 | 平山　浩之 |
| | | | | ○ | 数学特論Ⅲ | エ | | 2 | 3後 | | | | | | 2 | | | M | 1,2,3 | 平山　浩之 |
| | | | 確率論 統計学 | ★ | 確率・統計学Ⅰ | コ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | M | 5 | 藤井　良宜 |
| | | | | | 確率・統計学Ⅱ | コ | | 2 | 2後 | | | | 2 | | | | | M | 5 | 藤井　良宜 |
| | | | | ◎ | 数学特論Ⅳ | エ | | 2 | 3後 | | | | | | 2 | | | M | 1,3 | 藤井　良宜 |
| | | | コンピュータ | ★ | コンピュータ概論 | コ | ② | | 1後 | | ② | | | | | | | M | 5 | 藤井　良宜 |
| | | 修得すべき単位数 | | | | | 24 | 6 | | | | | | | | | | | | |
| | | 各教科の指導法 | 数学 | ★ | 数学科教育法Ⅰ | コ | ② | | 3前 | | | | | ② | | | | N | 2,3,5 | 添田　佳伸 |
| | | | | | 数学科教育法Ⅱ | コ | ② | | 3前 | | | | | ② | | | | N | 3 | 添田　佳伸 |
| | | | | ★ | 数学科教育法Ⅲ | コ | ② | | 3後 | | | | | | ② | | | N | 3 | 木根　主税 |
| | | | | | 数学教育法基礎 | エ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | N | 2,3,5 | 添田・木根 |
| | | 複数の事項を合わせた科目 | | | 数学教育実践研究 | エ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | N | 2,3 | 藤井（良）・木根 |
| | | 大学が独自に設定する科目 | | | 小中一貫授業研究（数学） | コ | ② | | 3後 | | | | | | ② | | | N | 1,2,3,5 | 添田　佳伸 |
| | | 修得すべき単位数 | | | | | 12 | | | | | | | | | | | | | |

＊ 小主免専攻は、★印の科目を必修とする。
＊ ○印は奇数年度、◎印は偶数年度に開講される科目を表す。
＊ 科目の担当教員は変更になる可能性があります。

小中一貫教育コース　中主免専攻専門科目(理科専修)

| 分類 | 科目区分 A | 科目区分 B | 科目区分 C | 記号 | 授業科目 | 区別 | 単位 必修 | 単位 選択 | 配当年次 | 1年次 前 | 1年次 後 | 2年次 前 | 2年次 後 | 3年次 前 | 3年次 後 | 4年次 前 | 4年次 後 | 関連能力 | 教育方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 6 | 小中一貫教育コース（理科）専門科目 | 教科に関する専門的事項 | 物理学 | ★ | 物理学概論Ⅰ | コ | ② | | 1後 | | ② | | | | | | | M | 1 | 秋山・下村 |
| | | | | | 物理学概論Ⅱ | コ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | M | | 秋山・下村 |
| | | | | | 物理学演習 | エ | | 1 | 3前 | | | | | 1 | | | | M | 1,2 | 秋山・下村 |
| | | | 物理学実験 | ★ | 物理学基礎実験Ⅰ(コンピュータ活用を含む。) | ジ | ① | | 1後 | | ① | | | | | | | M | 2,3 | 秋山・下村 |
| | | | | | 物理学基礎実験Ⅱ(コンピュータ活用を含む。) | ジ | | 1 | 2前 | | | 1 | | | | | | M | 2,3 | 秋山・下村 |
| | | | | | 物理学実験 | ジ | | 1 | 3後 | | | | | | 1 | | | M | 1,2,3 | 秋山・下村 |
| | | | 化学 | ★ | 化学概論Ⅰ | コ | ② | | 1後 | | ② | | | | | | | M | 1,3 | 有井　秀和 |
| | | | | | 化学概論Ⅱ | コ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | M | 1,3 | 中林　健一 |
| | | | | | 化学演習 | エ | | 1 | 3後 | | | | | | 1 | | | M | 1,2,3 | 中林・有井 |
| | | | 化学実験 | ★ | 化学基礎実験Ⅰ(コンピュータ活用を含む。) | ジ | ① | | 1後 | | ① | | | | | | | M | 1,2,3 | 有井　秀和 |
| | | | | | 化学基礎実験Ⅱ(コンピュータ活用を含む。) | ジ | | 1 | 2前 | | | 1 | | | | | | M | 1,2,3 | 中林　健一 |
| | | | | | 化学実験 | ジ | | 1 | 3前 | | | | | 1 | | | | M | 1,2,3 | 中林・有井 |
| | | | 生物学 | ★ | 生物学概論Ⅰ | コ | ② | | 1前 | ② | | | | | | | | M | 5 | 八ツ橋・西田 |
| | | | | | 生物学概論Ⅱ | コ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | M | 1,5 | 八ツ橋・西田 |
| | | | | | 生物学演習 | エ | | 1 | 3前 | | | | | 1 | | | | M | 1,2,3,5 | 八ツ橋・西田 |
| | | | 生物学実験 | ★ | 生物学基礎実験Ⅰ(コンピュータ活用を含む。) | ジ | ① | | 1前 | ① | | | | | | | | M | 2,3,4,5 | 八ツ橋・西田 |
| | | | | | 生物学基礎実験Ⅱ(コンピュータ活用を含む。) | ジ | | 1 | 2後 | | | | 1 | | | | | M | 1,2,3 4,5 | 八ツ橋・西田 |
| | | | | | 生物学実験 | ジ | | 1 | 3後 | | | | | | 1 | | | M | 1,2,3 4,5 | 八ツ橋・西田 |
| | | | 地学 | ★ | 地学概論Ⅰ | コ | ② | | 1前 | ② | | | | | | | | M | | 山北　聡 |
| | | | | | 地学概論Ⅱ | コ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | M | | 教育学部所属教員 |
| | | | | | 地学演習 | エ | | 1 | 3後 | | | | | | 1 | | | M | 1,2 | 山北　聡 |
| | | | 地学実験 | ★ | 地学基礎実験Ⅰ(コンピュータ活用を含む。) | ジ | ① | | 1前 | ① | | | | | | | | M | 3 | 山北　聡 |
| | | | | | 地学基礎実験Ⅱ(コンピュータ活用を含む。) | ジ | | 1 | 2後 | | | | 1 | | | | | M | 1,3 | 教育学部所属教員 |
| | | | | | 地学実験 | ジ | | 1 | 3前 | | | | | 1 | | | | M | 1,4 | 山北　聡 |
| | | 修得すべき単位数 | | | | | 20 | 10 | | | | | | | | | | | | |
| | | 各教科の指導法 | 理科 | ★ | 中等理科教育法Ⅰ | コ | ② | | 3前 | | | | | ② | | | | N | 3,5,6 | 中山・野添 |
| | | | | | 中等理科教育法Ⅱ | コ | ② | | 3前 | | | | | ② | | | | N | 3,6 | 中山・野添 |
| | | | | ★ | 中等理科教育法Ⅲ | コ | ② | | 3後 | | | | | | ② | | | N | 2,3,5,6 | 野添・中山 |
| | | | | | 理科教育法基礎 | エ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | N | 2,3,4 | 野添・中山 |
| | | 複数の事項を合わせた科目 | | | 理科教育実践研究 | エ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | N | 1,2,3 | 中山・秋山・中林・八ツ橋・山北・野添 |
| | | 大学が独自に設定する科目 | | | 小中一貫授業研究（理科） | コ | ② | | 3後 | | | | | | ② | | | N | 2,3,5 | 野添・中山 |
| | | 修得すべき単位数 | | | | | 12 | | | | | | | | | | | | | |

＊ 小主免専攻は、★印の科目を必修とする。
＊ 科目の担当教員は変更になる可能性があります。

小中一貫教育コース　中主免専攻専門科目(音楽専修)

| 分類 | 科目区分 A | 科目区分 B | 科目区分 C | 記号 | 授業科目 | 区別 | 単位 必修 | 単位 選択 | 配当年次 | 1年次 前 | 1年次 後 | 2年次 前 | 2年次 後 | 3年次 前 | 3年次 後 | 4年次 前 | 4年次 後 | 関連能力 | 教育方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7 | 小中一貫教育コース（音楽科）専門科目 | 教科に関する専門的事項 | ソルフェージュ | ★ | ソルフェージュⅠ | エ | ② | | 1前 | ② | | | | | | | | M | 1,2,3 | 阪本　幹子 |
| | | | | | ソルフェージュⅡ | エ | ② | | 1後 | | ② | | | | | | | M | 1,2,3 | 阪本　幹子 |
| | | | 声楽 | | 声楽概論 | コ | ② | | 1前 | ② | | | | | | | | M | 1,2,5 | 藤本　いく代 |
| | | | | | 基礎声楽 | ジ | ① | | 1後 | | ① | | | | | | | M | 1,2,5 | 藤本　いく代 |
| | | | | ★ | 声楽Ⅰ<br>(日本の伝統的歌唱を含む。) | ジ | ① | | 2前 | | | ① | | | | | | M | 1,2,5 | 藤本　いく代 |
| | | | | | 声楽Ⅱ | ジ | ① | | 2後 | | | | ① | | | | | M | 1,2,5 | 藤本　いく代 |
| | | | | | 声楽Ⅲ | ジ | | 1 | 3前 | | | | | 1 | | | | M | 1,2,5 | 藤本　いく代 |
| | | | | ★ | 合唱Ⅰ | ジ | ① | | 2前 | | | ① | | | | | | M | 1,3,5 | 藤本　いく代 |
| | | | | | 合唱Ⅱ | ジ | ① | | 2後 | | | | ① | | | | | M | 1,3,5 | 藤本　いく代 |
| | | | | | 合唱Ⅲ | ジ | | 1 | 3後 | | | | | | 1 | | | M | 1,3,5 | 藤本　いく代 |
| | | | 器楽 | | 鍵盤楽器概論 | コ | ② | | 1前 | ② | | | | | | | | M | 1,2,3 | 阪本　幹子 |
| | | | | | 基礎ピアノ | ジ | ① | | 1後 | | ① | | | | | | | M | 1,2 | 阪本　幹子 |
| | | | | ★ | ピアノⅠ(伴奏法を含む。) | ジ | ① | | 2前 | | | ① | | | | | | M | 1,2 | 阪本　幹子 |
| | | | | | ピアノⅡ | ジ | ① | | 2後 | | | | ① | | | | | M | 1,2 | 阪本　幹子 |
| | | | | | ピアノⅢ | ジ | | 1 | 3前 | | | | | 1 | | | | M | 1,2 | 阪本　幹子 |
| | | | | ★ | 和楽器 | ジ | ① | | 2前 | | | ① | | | | | | M | 1,3 | 教育学部所属教員 |
| | | | | ★ | 合奏Ⅰ | ジ | ① | | 2後 | | | | ① | | | | | M | 2,3 | 浦　雄一 |
| | | | | | 合奏Ⅱ | ジ | ① | | 3前 | | | | | ① | | | | M | 2,3 | 浦　雄一 |
| | | | | | 合奏Ⅲ | ジ | | 1 | 3後 | | | | | | 1 | | | M | 1,2 | 浦　雄一 |
| | | | 指揮法 | ★ | 指揮法 | ジ | ① | | 3前 | | | | | ① | | | | M | 1,2 | 浦　雄一 |
| | | | 音楽理論等 | ★ | 音楽理論 | コ | ② | | 1後 | | ② | | | | | | | M | 1,2 | 浦　雄一 |
| | | | | ★ | 作曲法(編曲法を含む。) | エ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | M | 1,2,3 | 浦　雄一 |
| | | | | ★ | 音楽史Ⅰ(日本の伝統音楽及び諸民族音楽を含む。) | コ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | M | 1,2,3,4,5 | 酒井　勇也 |
| | | | | | 音楽史Ⅱ | コ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | M | 1,2,3,5 | 酒井　勇也 |
| | | | | | 音楽表現研究Ⅰ | エ | ② | | 3前 | | | | | ② | | | | M | 1,2 | 藤本(い)・阪本・浦 |
| | | | | | 音楽表現研究Ⅱ | エ | | 2 | 3後 | | | | | | 2 | | | M | 1,2 | 藤本(い)・阪本・浦 |
| | | 修得すべき単位数 | | | | | 30 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 各教科の指導法 | 音楽 | ★ | 中等音楽科教育法Ⅰ | コ | ② | | 3前 | | | | | ② | | | | N | 1,2,3,5 | 菅・酒井 |
| | | | | | 中等音楽科教育法Ⅱ | コ | ② | | 3前 | | | | | ② | | | | N | 1,2,3,5 | 菅・酒井 |
| | | | | ★ | 中等音楽科教育法Ⅲ | コ | ② | | 3後 | | | | | | ② | | | N | 1,2,3,5 | 菅・酒井 |
| | | | | | 音楽科教育法基礎 | エ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | N | 1,2,3,5 | 菅・藤本(い)・阪本・浦・酒井 |
| | | 複数の事項を合わせた科目 | | | 音楽科教育実践研究 | エ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | N | 1,2,3,5 | 菅・藤本(い)・阪本・浦・酒井 |
| | | 大学が独自に設定する科目 | | | 小中一貫授業研究（音楽） | コ | ② | | 3後 | | | | | | ② | | | N | 1,2,3,5 | 菅・酒井 |
| | | 修得すべき単位数 | | | | | 12 | | | | | | | | | | | | | |

＊ 小主免専攻は、★印の科目を必修とする。
＊ 科目の担当教員は変更になる可能性があります。

小中一貫教育コース　中主免専攻専門科目(美術専修)

| 分類 | 科目区分 A | 科目区分 B | 科目区分 C | 記号 | 授業科目 | 区別 | 単位 必修 | 単位 選択 | 配当年次 | 1年次 前 | 1年次 後 | 2年次 前 | 2年次 後 | 3年次 前 | 3年次 後 | 4年次 前 | 4年次 後 | 関連能力 | 教育方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 8 | 小中一貫教育コース（美術科）専門科目 | 教科に関する専門的事項 | 絵画 | ★ | 絵画表現Ⅰ(映像メディア表現を含む。) | コ | ② | | 1前 | ② | | | | | | | | M | 1,2 | 大泉　佳広 |
| | | | | | 絵画表現Ⅱ | エ | ② | | 1後 | | ② | | | | | | | M | 1,2 | 大泉　佳広 |
| | | | | | 絵画表現Ⅲ | エ | | 1 | 2前 | | | 1 | | | | | | M | 1,2 | 大泉　佳広 |
| | | | | | 絵画表現Ⅳ | エ | | 1 | 3前 | | | | | 1 | | | | M | 1,2 | 大泉　佳広 |
| | | | | | 絵画表現Ⅴ | エ | | 1 | 3後 | | | | | | 1 | | | M | 1,2 | 大泉　佳広 |
| | | | 彫刻 | ★ | 彫塑表現Ⅰ | コ | ② | | 1前 | ② | | | | | | | | M | 1,2,3,4 | 大野　匠 |
| | | | | | 彫塑表現Ⅱ | エ | ② | | 1後 | | ② | | | | | | | M | 1,2,3,4 | 大野　匠 |
| | | | | | 彫塑表現Ⅲ | エ | | 1 | 2後 | | | | 1 | | | | | M | 1,2,3,4 | 大野　匠 |
| | | | | | 彫塑表現Ⅳ | エ | | 1 | 3前 | | | | | 1 | | | | M | 1,2,3,4 | 大野　匠 |
| | | | | | 彫塑表現Ⅴ | エ | | 1 | 3後 | | | | | | 1 | | | M | 1,2,3,4 | 大野　匠 |
| | | | デザイン | ★ | デザインⅠ(映像メディア表現を含む。) | コ | ② | | 1前 | ② | | | | | | | | M | 1,3,5 | 大泉　佳広 |
| | | | | | デザインⅡ | エ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | M | 1,3,5 | 大泉　佳広 |
| | | | | | デザインⅢ | エ | | 1 | 3前 | | | | | 1 | | | | M | 1,2,5 | 樺島　優子 |
| | | | 工芸 | ★ | 工芸表現Ⅰ | コ | ② | | 1後 | | ② | | | | | | | M | 1,2,3,4 | 大野　匠 |
| | | | | | 工芸表現Ⅱ | エ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | M | 1,2,3,4 | 大野　匠 |
| | | | | | 工芸表現Ⅲ | エ | | 1 | 3後 | | | | | | 1 | | | M | 1,2,3,4 | 大野　匠 |
| | | | 美術理論 美術史 | ★ | 美術鑑賞基礎(鑑賞、日本伝統美術、アジアの美術を含む。) | コ | ② | | 1前 | ② | | | | | | | | M | 1,2,5 | 石川　千佳子 |
| | | | | ★ | 美術理論Ⅰ | コ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | M | 1,2,5 | 石川　千佳子 |
| | | | | | 美術理論Ⅱ | エ | | 2 | 2後 | | | | 2 | | | | | M | 1,2,4,5 | 石川　千佳子 |
| | | | | | 美術理論Ⅲ | エ | | 2 | 3前 | | | | | 2 | | | | M | 1,2,4,5 | 石川　千佳子 |
| | | 修得すべき単位数 | | | | | 20 | 10 | | | | | | | | | | | | |
| | | 各教科の指導法 | 美術 | ★ | 美術科教育法Ⅰ | コ | ② | | 3前 | | | | | ② | | | | N | 1,2,5 | 幸　秀樹 |
| | | | | | 美術科教育法Ⅱ | コ | ② | | 3前 | | | | | ② | | | | N | 1,2,5 | 樺島　優子 |
| | | | | ★ | 美術科教育法Ⅲ | コ | ② | | 3後 | | | | | | ② | | | N | 1,2,5 | 樺島　優子 |
| | | | | | 美術科教育法基礎 | エ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | N | 2,3,4,5 | 樺島・大泉・大野 |
| | | 複数の事項を合わせた科目 | | | 美術科教育実践研究 | エ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | N | 2,3,4,5 | 幸・石川・樺島 |
| | | 大学が独自に設定する科目 | | | 小中一貫授業研究（美術） | コ | ② | | 3後 | | | | | | ② | | | N | 1,2,5 | 幸・樺島 |
| | | 修得すべき単位数 | | | | | 12 | | | | | | | | | | | | | |

＊ 小主免専攻は、★印の科目を必修とする。
＊ 科目の担当教員は変更になる可能性があります。

小中一貫教育コース　中主免専攻専門科目(保健体育専修)

| 分類 | 科目区分 A | 科目区分 B | 科目区分 C | 記号 | 授業科目 | 区別 | 単位 必修 | 単位 選択 | 配当年次 | 1年次 前 | 1年次 後 | 2年次 前 | 2年次 後 | 3年次 前 | 3年次 後 | 4年次 前 | 4年次 後 | 関連能力 | 教育方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 小中一貫教育コース（保健体育科）専門科目 | 教科に関する専門的事項 | 「体育原理・体育心理学・体育経営管理学・体育社会学・体育史」及び運動学 | ☆ | 体育学Ⅰ | コ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | M | 1,2,3,4 | 宇土　昌志 |
| | | | | ☆ | 体育学Ⅱ | コ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | M | 1,2,3 | 日髙　正博 |
| | | | | ☆ | 体育学Ⅲ | コ | ② | | 2全 | | | ② | | | | | | M | 1,2,3 | 志々目　由理江 |
| | | | | ★ | 運動学<br>(運動方法学を含む。) | コ | ② | | 1後 | | ② | | | | | | | M | 1,2 | 三輪　佳見 |
| | | | 生理学 | ★ | 生理学<br>(運動生理学を含む。) | コ | ② | | 2全 | | | ② | | | | | | M | 1,2,5 | 教育学部所属教員 |
| | | | 衛生学 | ★ | 衛生公衆衛生学 | コ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | M | 1,2,3,5 | 塩瀬　圭佑 |
| | | | 学校保健 | ★ | 学校保健 | コ | ② | | 1前 | ② | | | | | | | | M | 1,3,5 | 塩瀬　圭佑 |
| | | | | | 学校保健実習Ⅰ | ジ | ① | | 3前 | | | | | ① | | | | M | 1,2,3,4,5 | 塩瀬　圭佑 |
| | | | | | 学校保健実習Ⅱ | ジ | ① | | 3後 | | | | | | ① | | | M | 1,2,3,4,5 | 塩瀬　圭佑 |
| | | | 体育実技 | | 体育実技Ⅰ<br>(陸上競技を含む。) | ジ | ① | | 1前 | ① | | | | | | | | M | 1,2,3,4 | 宇土　昌志 |
| | | | | | 体育実技Ⅱ<br>(水泳を含む。) | ジ | ① | | 1前 | ① | | | | | | | | M | 1,2,3,4 | 塩瀬　圭佑 |
| | | | | | 体育実技Ⅲ<br>(器械運動を含む。) | ジ | ① | | 1前 | ① | | | | | | | | M | 1,2,4 | 三輪　佳見 |
| | | | | ◎ | 体育実技Ⅳ<br>(ダンスを含む。) | ジ | ① | | 1後 | | ① | | | | | | | M | 1,2,4,5 | 教育学部所属教員 |
| | | | | ○ | 体育実技Ⅴ<br>(球技を含む。) | ジ | ① | | 1全 | ① | | | | | | | | M | 1,3,4 | 教育学部所属教員 |
| | | | | ◎ | 体育実技Ⅵ<br>(球技を含む。) | ジ | ① | | 1後 | | ① | | | | | | | M | 1,3,4 | 教育学部所属教員 |
| | | | | ○ | 体育実技Ⅶ<br>(球技を含む。) | ジ | ① | | 1後 | | ① | | | | | | | M | 1,2,3,4 | 日髙　正博 |
| | | | | | 体育実技Ⅷ<br>(武道を含む。) | ジ | ① | | 1全 | ① | | | | | | | | M | 1,2,3,4 | 志々目　由理江 |
| | | | | ★ | 基礎実技演習Ⅰ | エ | ① | | 1後 | | ① | | | | | | | M | 1,2,4,5 | 三輪・塩瀬・宇土・志々目 |
| | | | | ★ | 基礎実技演習Ⅱ | エ | ① | | 1後 | | ① | | | | | | | M | 1,2,3,4 | 日髙　正博 |
| | | | | | 体つくり運動実践法 | エ | ① | | 1全 | ① | | | | | | | | M | 1,4 | 教育学部所属教員 |
| | | | | | 個人スポーツ実践法 | エ | ① | | 2前 | | | ① | | | | | | M | 1,2,3,4 | 宇土　昌志 |
| | | | | | 対人スポーツ実践法 | エ | ① | | 3全 | | | | | ① | | | | M | 1,2,3,4 | 志々目　由理江 |
| | | | | | チームスポーツ実践法 | エ | ① | | 3全 | | | | | ① | | | | M | 1,3,4 | 教育学部所属教員 |
| | | 修得すべき単位数 | | | | | 30 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 各教科の指導法 | 保体 | ★ | 保健体育科教育法Ⅰ | コ | ② | | 3前 | | | | | ② | | | | N | 1,2,3,5 | 日髙　正博 |
| | | | | | 保健体育科教育法Ⅱ | コ | ② | | 3前 | | | | | ② | | | | N | 1 | 日髙　正博 |
| | | | | ★ | 保健体育科教育法Ⅲ | コ | ② | | 3後 | | | | | | ② | | | N | 1,2,3,5 | 三輪　佳見 |
| | | | | | 保健体育科教育法基礎 | エ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | N | 1,2,5 | 日髙・宇土・塩瀬 |
| | | 複数の事項を合わせた科目 | | | 保健体育科教育実践研究 | エ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | N | 1,2,5 | 三輪・日髙・志々目・塩瀬 |
| | | 大学が独自に設定する科目 | | | 小中一貫授業研究（保健体育） | コ | ② | | 3後 | | | | | | ② | | | N | 1,2,3,4 | 日髙　正博 |
| | | 修得すべき単位数 | | | | | 12 | | | | | | | | | | | | | |

＊ 小主免専攻は、★印の科目を必修とする。
＊ 小主免専攻は、☆印の体育学Ⅰ～Ⅲから１科目(２単位)を選択必修とする。
＊ ○印は奇数年度、◎印は偶数年度に開講される科目を表す。
＊ 科目の担当教員は変更になる可能性があります。

## 小中一貫教育コース　中主免専攻専門科目(技術専修)

| 分類 | 科目区分 A | 科目区分 B | 科目区分 C | 記号 | 授業科目 | 区別 | 単位 必修 | 単位 選択 | 配当年次 | 1年次 前 | 1年次 後 | 2年次 前 | 2年次 後 | 3年次 前 | 3年次 後 | 4年次 前 | 4年次 後 | 関連能力 | 教育方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10 | 小中一貫教育コース（技術科）専門科目 | 教科に関する専門的事項 | 木材加工 | ★ | 木材加工学概論<br>(製図及び実習を含む。) | エ | ② | | 1後 | | ② | | | | | | | M | 1,2 | 藤元　嘉安 |
| | | | | | 木材加工実習法 | コ | ② | | 3前 | | | | | ② | | | | M | 1,2,3,5 | 藤元　嘉安 |
| | | | | | 木材加工実習 | ジ | ① | | 2前 | | | ① | | | | | | M | 1,2 | 藤元　嘉安 |
| | | | | | 木材加工学演習 | エ | | 2 | 3後 | | | | | | 2 | | | M | 1,2,5 | 藤元　嘉安 |
| | | | 金属加工 | ★ | 金属加工法<br>(製図及び実習を含む。) | コ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | M | 1,2 | 教育学部所属教員 |
| | | | | | 加工システム実習<br>(工学部 開講科目) | ジ | | 1 | 2後 | | | | 1 | | | | | M | 1,2 | 木之下　広幸<br>(工学部) |
| | | | | | 基礎製図 | ジ | ② | | 1前 | ② | | | | | | | | M | 1 | 藤元　嘉安 |
| | | | 機械 | ★ | 機械工学概論<br>(実習を含む。) | コ | ② | | 1前 | ② | | | | | | | | M | 1,2 | 教育学部所属教員 |
| | | | | | 機械設計システム特別講義Ⅰ(工学部 開講科目) | コ | | 2 | 1前 | 2 | | | | | | | | M | 1,2 | 鄧　鋼<br>(工学部) |
| | | | | | 機械学実習<br>(工学部 開講科目) | ジ | | 1 | 2後 | | | | 1 | | | | | M | 1,2 | 木之下　広幸<br>(工学部) |
| | | | | | 材料力学基礎<br>(工学部 開講科目) | コ | | 2 | 2後 | | | | 2 | | | | | M | 1,2 | 河村　隆介<br>(工学部) |
| | | | 電気 | ★ | 電気工学概論<br>(実習を含む。) | コ | ② | | 1前 | ② | | | | | | | | M | 1,2 | 湯地　敏史 |
| | | | | | 電気電子工学 | コ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | M | 1,2 | 湯地　敏史 |
| | | | | | 電気工作実習 | ジ | | 1 | 2後 | | | | 1 | | | | | M | 1,2 | 湯地　敏史 |
| | | | | | 電気回路演習 | エ | | 2 | 3後 | | | | | | 2 | | | M | 1,2 | 湯地　敏史 |
| | | | | | 電気応用実験 | ジ | | 1 | 3後 | | | | | | 1 | | | M | 1,2 | 湯地　敏史 |
| | | | 栽培 | ★ | 栽培学概論<br>(実習を含む。) | コ | ② | | 1後 | | ② | | | | | | | M | 1 | 教育学部所属教員 |
| | | | | | 農場実習 | ジ | ① | | 3前 | | | | | ① | | | | M | 1,4 | 教育学部所属教員 |
| | | | 情報とコンピュータ | ★ | 情報処理学<br>(実習を含む。) | コ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | M | 1,5 | 松澤　英之（情報基盤センター） |
| | | | | | 情報科学実習 | ジ | | 1 | 2前 | | | 1 | | | | | | M | 1,5 | 松澤　英之（情報基盤センター） |
| | | | 職業指導 | | 職業指導 | コ | | 2 | 2前 | | | 2 | | | | | | M | 3 | 教育学部所属教員 |
| | | 修得すべき単位数 | | | | | 20 | 10 | | | | | | | | | | | | |
| | | 各教科の指導法 | 技術 | ★ | 技術科教育法Ⅰ | コ | ② | | 3前 | | | | | ② | | | | N | 1,2,3 | 藤元　嘉安、小八重　智史 |
| | | | | | 技術科教育法Ⅱ | コ | ② | | 3前 | | | | | ② | | | | N | 1,3 | 湯地　敏史、小八重　智史 |
| | | | | ★ | 技術科教育法Ⅲ | コ | ② | | 3後 | | | | | | ② | | | N | 1,2,3 | 湯地　敏史、小八重　智史 |
| | | | | | 技術科教育法基礎 | エ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | N | 1,2,5 | 湯地　敏史、小八重　智史 |
| | | 複数の事項を合わせた科目 | | | 技術科教育実践研究 | エ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | N | 1,2 | 教育学部所属教員 |
| | | 大学が独自に設定する科目 | | | 小中一貫授業研究（技術） | コ | ② | | 3後 | | | | | | ② | | | N | 1,2,3 | 教育学部所属教員 |
| | | 修得すべき単位数 | | | | | 12 | | | | | | | | | | | | | |

＊ 小主免専攻は、★印の科目を必修とする。
＊ 科目区分「栽培」の科目については、高等学校教諭免許状取得に必要な単位として認定されない。
＊ 科目区分「職業指導」の科目については、中学校教諭免許状取得に必要な単位として認定されない。
＊ 科目の担当教員は変更になる可能性があります。

## 小中一貫教育コース　中主免専攻専門科目(家庭専修)

| 分類 | 科目区分 A | 科目区分 B | 科目区分 C | 記号 | 授業科目 | 区別 | 単位 必修 | 単位 選択 | 配当年次 | 1年次 前 | 1年次 後 | 2年次 前 | 2年次 後 | 3年次 前 | 3年次 後 | 4年次 前 | 4年次 後 | 関連能力 | 教育方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 11 | 小中一貫教育コース（家庭科）専門科目 | 教科に関する専門的事項 | 家庭経営学 | ★◎ | 家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む。) | コ | ② | | 1後 | | ② | | | | | | | M | 1,2,5 | 大矢　英世 |
| | | | | ○ | 家族生活学 | コ | ② | | 1後 | | ② | | | | | | | M | 1,2,5 | 大矢　英世 |
| | | | | | ジェンダーと法(地域資源創成学部　開講科目) | コ | | 2 | 4前 | | | | | | | 2 | | M | | 足立　文美恵<br>(地域資源創成学部) |
| | | | 被服学 | ★ | 被服学<br>(被服製作実習を含む。) | コ | ② | | 1全 | ② | | | | | | | | M | 1,2,5 | 教育学部所属教員 |
| | | | | | 被服学基礎実習 | ジ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | M | 1,2,3 | 教育学部所属教員 |
| | | | | | 被服学応用実習 | ジ | | 1 | 2後 | | | | 1 | | | | | M | 1,2 | 教育学部所属教員 |
| | | | | | 被服材料学 | コ | | 2 | 1後 | | 2 | | | | | | | M | 1,2,3,5 | 教育学部所属教員 |
| | | | | | 被服学実験 | ジ | | 1 | 3前 | | | | | 1 | | | | M | 1,2,3 | 教育学部所属教員 |
| | | | 食物学 | ★ | 食物学(栄養学・食品学及び調理実習を含む。) | コ | ② | | 1後 | | ② | | | | | | | M | 1,2 | 篠原　久枝 |
| | | | | | 栄養の生活科学 | コ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | M | 1,2,5 | 篠原　久枝 |
| | | | | ★ | 調理学実習 | ジ | ② | | 1前 | ② | | | | | | | | M | 1,3 | 篠原　久枝 |
| | | | | ◎ | 食物学実習 | エ | | 1 | 3後 | | | | | | 1 | | | M | 1,2,3 | 篠原　久枝 |
| | | | | ○ | 食物学実験 | ジ | | 1 | 3後 | | | | | | 1 | | | M | 1,3 | 篠原　久枝 |
| | | | 住居学 | ★ | 住居学(製図を含む。) | コ | ② | | 1前 | ② | | | | | | | | M | 1,2,5 | 米村　敦子 |
| | | | | | 設計製図実習 | ジ | | 2 | 1後 | | 2 | | | | | | | M | 1,2 | 米村　敦子 |
| | | | | | 住居学実験 | ジ | | 1 | 2前 | | | 1 | | | | | | M | 1,2,3 | 米村　敦子 |
| | | | | | 居住福祉論 | コ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | M | 1,2,4,5 | 米村　敦子 |
| | | | | | 住居学実習 | ジ | | 1 | 3前 | | | | | 1 | | | | M | 1,2,3,5 | 米村　敦子 |
| | | | 保育学 | ★ | 保育学<br>(実習及び家庭看護を含む。) | コ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | M | 1,2,4 | 篠原　久枝 |
| | | | | | 子ども生活論 | エ | | 2 | 2後 | | | | 2 | | | | | M | 1,2,5 | 篠原　久枝 |
| | | | 家庭電気・機械 | | 家庭電気・機械 | エ | | 2 | 2後 | | | | 2 | | | | | M | 1,3 | 甲藤(産学・地域連携センター)<br>木之下(工学部) |
| | | | 情報処理 | | 情報処理学 | コ | | 2 | 2後 | | | | 2 | | | | | M | 1,5 | 松澤　英之（情報基盤センター） |
| | | 修得すべき単位数 | | | | | 20 | 10 | | | | | | | | | | | | |
| | | 各教科の指導法 | 家庭 | ★ | 中等家庭科教育法Ⅰ | コ | ② | | 3前 | | | | | ② | | | | N | 1,2,5 | 伊波　富久美 |
| | | | | | 中等家庭科教育法Ⅱ | コ | ② | | 3前 | | | | | ② | | | | N | 2,3,5 | 大矢　英世 |
| | | | | ★ | 中等家庭科教育法Ⅲ | コ | ② | | 3後 | | | | | | ② | | | N | 2,3,5 | 伊波　富久美 |
| | | | | | 家庭科教育法基礎 | エ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | N | 1,2 | 伊波・大矢 |
| | | 複数の事項を合わせた科目 | | | 家庭科教育実践研究 | エ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | N | 1,2,5 | 篠原・米村・大矢 |
| | | 大学が独自に設定する科目 | | | 小中一貫授業研究（家庭） | コ | ② | | 3後 | | | | | | ② | | | N | 1,2,3,4,5 | 大矢　英世 |
| | | 修得すべき単位数 | | | | | 12 | | | | | | | | | | | | | |

＊ 小主免専攻は、★印の科目を必修とする。
＊ ○印は奇数年度、◎印は偶数年度に開講される科目を表す。
＊ 科目の担当教員は変更になる可能性があります。

小中一貫教育コース　中主免専攻専門科目(英語専修)

| 分類 | 科目区分 A | 科目区分 B | 科目区分 C | 記号 | 授業科目 | 区別 | 単位 必修 | 単位 選択 | 配当年次 | 1年次 前 | 1年次 後 | 2年次 前 | 2年次 後 | 3年次 前 | 3年次 後 | 4年次 前 | 4年次 後 | 関連能力 | 教育方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 12 | 小中一貫教育コース（英語科）専門科目 | 教科に関する専門的事項 | 英語学 | ★ | 英文読解・表現法 | ジ | ① | | 1前 | ① | | | | | | | | M | 1,2,3 | 本多　正敏 |
| | | | | ★ | 英語学概論 | コ | ② | | 1前 | ② | | | | | | | | M | 1,2,3 | 村端　五郎 |
| | | | | ☆ | 英語学演習Ⅰ | ジ | ① | | 1後 | | ① | | | | | | | M | 1,2 | 村端　五郎 |
| | | | | ☆ | 英語学演習Ⅱ | ジ | ① | | 1後 | | ① | | | | | | | M | 1,2 | 本多　正敏 |
| | | | | | 英語学演習Ⅲ | ジ | ① | | 2前 | | | ① | | | | | | M | 1,2 | 村端　五郎 |
| | | | | | 英語学演習Ⅳ | ジ | ① | | 2後 | | | | ① | | | | | M | 1,2 | 本多　正敏 |
| | | | | | 英語学演習Ⅴ | ジ | | 1 | 3前 | | | | | 1 | | | | M | 1,2 | 本多　正敏 |
| | | | 英語文学 | ☆ | 米文学読解法基礎 | ジ | ① | | 1前 | ① | | | | | | | | M | 1,2,3,5 | 井崎　浩 |
| | | | | ☆ | 英文学読解法基礎 | ジ | ① | | 1後 | | ① | | | | | | | M | 2,3,5 | 新名　桂子 |
| | | | | ★ | 英文学概論 | コ | ② | | 1前 | ② | | | | | | | | M | 2,3,5 | 新名　桂子 |
| | | | | ★ | 米文学概論 | コ | ② | | 1後 | | ② | | | | | | | M | 2,3,5 | 井崎　浩 |
| | | | | | 英文学読解法 | ジ | ① | | 2前 | | | ① | | | | | | M | 2,3,5 | 新名　桂子 |
| | | | | | 米文学読解法 | ジ | ① | | 2後 | | | | ① | | | | | M | 1,2,3,5 | 井崎　浩 |
| | | | | | 米文学演習 | ジ | | 1 | 3前 | | | | | 1 | | | | M | 1,2,3,5 | 井崎　浩 |
| | | | | | 英文学演習 | ジ | | 1 | 3後 | | | | | | 1 | | | M | 2,3,5 | 新名　桂子 |
| | | | 英語コミュニケーション | ★ | 口語英語Ⅰ | ジ | ① | | 1前 | ① | | | | | | | | M | 1,2,3,5 | ロビン・リード |
| | | | | | 口語英語Ⅱ | ジ | ① | | 1後 | | ① | | | | | | | M | 1,2,3,5 | ロビン・リード |
| | | | | | 口語英語Ⅲ | ジ | ① | | 2後 | | | | ① | | | | | M | 2,3,5 | ロビン・リード |
| | | | | | 口語英語Ⅳ | ジ | | 1 | 3前 | | | | | 1 | | | | M | 1,2,3,5 | ロビン・リード |
| | | | | ☆ | 英語聴解法Ⅰ | ジ | ① | | 1前 | ① | | | | | | | | M | 1,2,3,5 | ロビン・リード |
| | | | | | 英語聴解法Ⅱ | ジ | ① | | 2前 | | | ① | | | | | | M | 1,2,3,5 | ロビン・リード |
| | | | | ☆ | 英語テクスト コミュニケーションⅠ | ジ | ① | | 1後 | | ① | | | | | | | M | 1,3 | 村端　五郎 |
| | | | | | 英語テクスト コミュニケーションⅡ | ジ | ① | | 2後 | | | | ① | | | | | M | 1,2,3,5 | ロビン・リード |
| | | | | ★ | 英語コミュニケーション論 | コ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | M | 2,3,5 | ロビン・リード |
| | | | | | 英語プレゼンテーション | ジ | | 1 | 3後 | | | | | | 1 | | | M | 1,2,3,5 | ロビン・リード |
| | | | 異文化理解 | ★ | 異文化理解 | エ | ② | | 4後 | | | | | | | | ② | M | 2,3,5 | ロビン・リード |
| | | 修得すべき単位数 | | | | | 26 | 4 | | | | | | | | | | | | |
| | | 各教科の指導法 | 英語 | ★ | 中等英語教育法Ⅰ | コ | ② | | 3前 | | | | | ② | | | | N | 1,2,3,6 | 影浦　攻 |
| | | | | | 中等英語教育法Ⅱ | コ | ② | | 3前 | | | | | ② | | | | N | 1,2,3,6 | 影浦　攻 |
| | | | | ★ | 中等英語教育法Ⅲ | コ | ② | | 3後 | | | | | | ② | | | N | 1,2,3 | 興津　紀子 |
| | | | | | 英語教育法基礎 | エ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | N | 1,2,3 | 興津　紀子 |
| | | 複数の事項を合わせた科目 | | | 英語教育実践研究 | エ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | N | 1,2,3 | 井崎・新名・興津 |
| | | 大学が独自に設定する科目 | | | 小中一貫授業研究（英語） | コ | ② | | 3後 | | | | | | ② | | | N | 1,3 | 興津　紀子 |
| | | 修得すべき単位数 | | | | | 12 | | | | | | | | | | | | | |

＊ 小主免専攻は、★印の科目を必修とする。
＊ 小主免専攻は、☆印の科目も選択履修することが望ましい。
＊ 科目の担当教員は変更になる可能性があります。

小中一貫教育コース　中主免専攻専門科目(教職専門科目、教科または教職専門科目)

| 分類 | 科目区分 A | 科目区分 B | 科目区分 C | 記号 | 授業科目 | 区別 | 単位 必修 | 単位 選択 | 配当年次 | 1年次 前 | 1年次 後 | 2年次 前 | 2年次 後 | 3年次 前 | 3年次 後 | 4年次 前 | 4年次 後 | 関連能力 | 教育方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 13 | 中学校教育専門科目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | 教育の理念 | | 教育本質論 | コ | ② | | 1前 | ② | | | | | | | | L | 2 | 深見　奨平 |
| | | | 心身の発達 | ♧ | 学校教育心理学 | コ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | F | 2,3,5 | 教育学部所属教員 |
| | | | 教育制度 | | 教育制度論 | コ | ② | | 1後 | | ② | | | | | | | L | 5 | 湯田　拓史 |
| | | | 教育課程 | | 教育課程論 | コ | ② | | 1後 | | ② | | | | | | | N | 3,5 | 遠藤　宏美 |
| | | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | 道徳の理論 | | 道徳教育論 | コ | ② | | 3前 | | | | | ② | | | | N | 2,3 | 椋木　香子 |
| | | | 総合的な学習 | | 総合的な学習の時間の指導法 | コ | ① | | 3前 | | | | | ① | | | | | | 遠藤・吉村 |
| | | | 特別活動 | | 特別活動論 | コ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | G | 2,3,5 | 盛満　弥生 |
| | | | 教育の方法 | | 教育の方法と技術　(情報機器及び教材の活用を含む。) | コ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | N | 2,5,6 | 竹内・小林 |
| | | | 生徒指導 | | 生徒指導概論<br>(進路指導を含む。) | コ | ② | | 3後 | | | | | | ② | | | G | 2 | 髙橋　高人 |
| | | | 教育相談 | | 教育相談　(カウンセリングの基礎的知識を含む。) | コ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | G | 2 | 境　泉洋 |
| | | 教育実践に関する科目 | 教育実習 | | 教育実習Ⅰ | ジ | ① | | 2前 | | | ① | | | | | | J | 2,3,4 | 教育実習運営委員会 |
| | | | | | 教育実習Ⅱ | ジ | ③ | | 3前 | | | | | ③ | | | | J | 2,3,4 | 教育実習運営委員会 |
| | | | | | 教育実習Ⅲ | ジ | ① | | 3後 | | | | | | ① | | | J | 2,3,4 | 教育実習運営委員会 |
| | | | | | 教育実習Ⅳ | ジ | ② | | 4前 | | | | | | | ② | | J | 2,3,4 | 教育実習運営委員会 |
| | | | | ★ | 教育実習基礎研究(中高) | ジ | ① | | 3前 | | | | | ① | | | | J | 2,3,6 | 竹内　元 |
| | | | 教職実践演習 | | 教職実践演習(幼小中高) | エ | ② | | 4全 | | | | | | | ② | | D,I | 2,3,4 | 学校教育課程全教員 |
| | 修得すべき単位数 | | | | | | 29 | | | | | | | | | | | | | |

＊ 小主免専攻は、★印の科目を必修とする。
＊ 科目の担当教員は変更になる可能性があります。
※ 准学校心理士の資格を取得する場合、♧印を付した科目を履修すること。

## 教職実践基礎コース　教職実践基礎専攻専門科目

| 分類 | 科目区分 A | 科目区分 B | 科目区分 C | 記号 | 授業科目 | 区別 | 単位 必修 | 単位 選択 | 配当年次 | 1年次 前 | 1年次 後 | 2年次 前 | 2年次 後 | 3年次 前 | 3年次 後 | 4年次 前 | 4年次 後 | 関連能力 | 教育方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 14 | 教職実践基礎コース専門科目 | | | | 現代の教育課題と学校 | コ | ② | | 1後 | | ② | | | | | | | L | 1,2,3,5 | 盛満・深見・椋木・遠藤・小林・竹内・湯田 |
| | | 教育の基礎的理解に関する科目 | 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 | | 学校と教員の歴史 | コ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | L | 1,2,5 | 深見　奨平 |
| | | | | | 学校教育史基礎演習 | エ | ① | | 3前 | | | | | ① | | | | L | 1,2 | 深見　奨平 |
| | | | | △ | 学校教育史発展演習 | エ | | 2 | 3後 | | | | | | 2 | | | I | 1,2 | 深見　奨平 |
| | | | 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。） | | 教育社会学 | コ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | L | 1,2,5 | 盛満　弥生 |
| | | | | | 教育社会学基礎演習 | エ | ① | | 3前 | | | | | ① | | | | L | 1,2,3 | 盛満　弥生 |
| | | | | △ | 教育社会学発展演習 | エ | | 2 | 3後 | | | | | | 2 | | | I | 1,2,3 | 盛満　弥生 |
| | | | | | 学校制度論 | コ | | 2 | 3後 | | | | | | 2 | | | L | 1,2,3 | 湯田　拓史 |
| | | | | ♭ | 学校・学級経営論 | コ | | 2 | 4前 | | | | | | | 2 | | G | 1,2,3,5 | 盛満・湯田・深見・小林 |
| | | | 教育課程の意義及び編成の方法 | ♭ | 教育課程・学習開発論 | コ | | 2 | 4全 | | | | | | | 2 | | J | 1,2,3,5 | 椋木・遠藤・竹内・小林 |
| | | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） | | 情報メディア活用と情報教育 | コ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | N | 1,2,3,5 | 小林　博典 |
| | | | | | 教育方法学 | コ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | L | 1,2,3,5 | 遠藤　宏美 |
| | | | | | 教育方法学基礎演習 | エ | ① | | 3前 | | | | | ① | | | | L | 1,2,3,5 | 遠藤　宏美 |
| | | | | △ | 教育方法学発展演習 | エ | | 2 | 3後 | | | | | | 2 | | | I | 1,2,3,4,5 | 遠藤　宏美 |
| | | | 道徳の理論及び指導法 | | 道徳授業論 | コ | | 2 | 4前 | | | | | | | 2 | | N | 1,2 | 椋木　香子 |
| | | | | | 道徳教育論基礎演習 | エ | ① | | 3前 | | | | | ① | | | | L | 1,2 | 椋木　香子 |
| | | | | △ | 道徳教育論発展演習 | エ | | 2 | 3後 | | | | | | 2 | | | I | 1,2 | 椋木　香子 |
| | 修得すべき単位数 | | | | | | 14 | 7 | | | | | | | | | | | | |

＊ △印が付している「発展演習」の科目のうち１単位が選択必修である。
＊ ♭印が付している科目はどちらか2単位が選択必修である。
＊ 科目の担当教員は変更になる可能性があります。

発達支援教育コース　子ども理解専攻専門科目

| 分類 | 科目区分 A | 科目区分 B | 科目区分 C | 記号 | 授業科目 | 区別 | 単位 必修 | 単位 選択 | 配当年次 | 1年次 前 | 1年次 後 | 2年次 前 | 2年次 後 | 3年次 前 | 3年次 後 | 4年次 前 | 4年次 後 | 関連能力 | 教育方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 15 | 発達支援教育コース科目 | | | | 子どもの発達と教育支援 | コ | ② | | 1後 | | ② | | | | | | | F | 5 | 境・髙橋・尾之上・戸ヶ崎・半田・若林・教育学部所属教員 |
| 16 | 発達支援教育コース子ども理解専攻専門科目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 | ♧ | 発達心理学 | コ | ② | | 1後 | | ② | | | | | | | L | 3,5 | 教育学部所属教員 |
| | | | | | 教育心理学演習 | エ | | 1 | 1前 | 1 | | | | | | | | L | 1,2 | 尾之上　高哉 |
| | | | | | 発達心理学演習 | エ | | 1 | 1後 | | 1 | | | | | | | L | 3 | 教育学部所属教員 |
| | | | | | 教育心理学実験 | ジ | | 1 | 2前 | | | 1 | | | | | | L | 1,3 | 境·髙橋・尾之上 |
| | | | | | 教育心理学研究法Ⅰ | エ | ① | | 3前 | | | | | ① | | | | L | 1,2,3 | 境·髙橋・尾之上 |
| | | | | | 教育心理学研究法Ⅱ | エ | ① | | 3後 | | | | | | ① | | | L | 1,2,3 | 境·髙橋・尾之上 |
| | | 道徳、総合的な学習の時間等の指導、生徒指導及び教育相談等に関する科目 | 教育相談の理論及び方法 | ♧ | 学校教育の臨床心理学 | コ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | G | 2,3 | 境・髙橋 |
| | | | | | 教育心理アセスメント | コ | | 2 | 2前 | | | 2 | | | | | | F | 2,3 | 境　泉洋 |
| | | | | | 教育臨床心理学演習Ⅰ | エ | | 1 | 2前 | | | 1 | | | | | | G | 2,3 | 髙橋　高人 |
| | | | | | 教育臨床心理学演習Ⅱ | エ | | 1 | 2後 | | | | 1 | | | | | G | 2,3 | 境　泉洋 |
| | | 大学が独自に設定する科目 | その他 | | 教育統計法 | コ | | 2 | 2後 | | | | 2 | | | | | L | 3 | 境·髙橋・尾之上 |
| | | 幼稚園教育 | 保育内容の指導法 | | 保育内容（健康）の指導法 | コ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | N | 3 | 塩瀬　圭佑 |
| | | | | | 保育内容(人間関係)の指導法 | コ | ② | | 3後 | | | | | | ② | | | N | 2,3,5 | 教育学部所属教員 |
| | | | | | 保育内容(環境)の指導法 | コ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | N | 2,3,4,5 | 添田・中山・野添 |
| | | | | | 保育内容(言葉)の指導法 | コ | ② | | 1後 | | ② | | | | | | | N | 3,5 | 尾之上　高哉 |
| | | | | | 保育内容(表現)の指導法 | コ | ② | | 1後 | | ② | | | | | | | N | 3,4 | 樺島・教育学部所属教員 |
| | | | 幼児理解 | | 幼児の理解と教育相談 | コ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | F | 5 | 立元　真 |
| | | | 教育実習 | | 幼稚園観察実習 | ジ | ① | | 2全 | | | ① | | | | | | J | 2,3,4 | 教育実習運営委員会 |
| | | | | ■ | 幼稚園教育実習 | ジ | ② | | 4前 | | | | | | | ② | | J | 2,3,4 | 教育実習運営委員会 |
| 修得すべき単位数 | | | | | | | 23 | 4 | | | | | | | | | | | | |

＊ ■印を付した教育実習科目については、分類16の「幼稚園教育実習」、もしくは分類2の「教育実習Ⅳ」のいずれかを選択し2単位を修得する。
＊ 科目の担当教員は変更になる可能性があります。
※ 准学校心理士の資格を取得する場合、♧印を付した科目を履修すること。

発達支援教育コース　特別支援教育専攻専門科目(特別支援教育に関する科目)

| 分類 | 科目区分 A | 科目区分 B | 科目区分 C | 記号 | 授業科目 | 区別 | 単位 必修 | 単位 選択 | 配当年次 | 1年次 前 | 1年次 後 | 2年次 前 | 2年次 後 | 3年次 前 | 3年次 後 | 4年次 前 | 4年次 後 | 関連能力 | 教育方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 17 | 発達支援教育コース特別支援教育専攻専門科目 | 基礎理論 | | | 障害児教育学総論 | コ | ② | | 1前 | ② | | | | | | | | L | 2,5 | 若林　上総 |
| | | 特別支援教育領域に関する科目 | 心理、生理及び病理 | | 知的障害者の生理・病理 | コ | ② | | 1前 | ② | | | | | | | | F | 2,5 | 教育学部所属教員 |
| | | | | | 知的障害者の心理 | コ | ② | | 1後 | | ② | | | | | | | F | 2,5 | 戸ヶ崎　泰子 |
| | | | | | 肢体不自由者の心理・生理・病理 | コ | ② | | 2前 | | | ② | | | | | | F | 2,5 | 戸ヶ崎・教育学部所属教員 |
| | | | | | 病弱者の心理・生理・病理 | コ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | F | 2,5 | 半田・教育学部所属教員 |
| | | | | | 障害児アセスメント | コ | | 2 | 2前 | | | 2 | | | | | | F | 2,3 | 半田　健 |
| | | | 教育課程及び指導法 | | 障害児教育課程 | コ | ② | | 1後 | | ② | | | | | | | N | 2,5 | 若林　上総 |
| | | | | | 知的障害児教育 | コ | ② | | 3前 | | | | | ② | | | | N | 2,3,4 | 戸ヶ崎　泰子 |
| | | | | | 肢体不自由児教育 | コ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | N | 2,3,5 | 若林・教育学部所属教員 |
| | | | | | 病弱児教育 | コ | ② | | 3後 | | | | | | ② | | | N | 2,5 | 半田・若林 |
| | | | | | 特別支援学級経営 | コ | | 2 | 3前 | | | | | 2 | | | | G | 2,3,4 | 戸ヶ崎・若林 |
| | | | 心理、生理及び病理・教育課程及び指導法 | △ | 障害児指導法Ａ(前期)(障害児教育) | エ | | 1 | 3前 | | | | | 1 | | | | N | 1,2,3,4,5 | 若林　上総 |
| | | | | | 障害児指導法Ａ(後期)(障害児教育) | エ | | 1 | 3後 | | | | | | 1 | | | N | 1,2,3,4,5 | |
| | | | | △ | 障害児指導法Ｂ(前期)(障害児生理・病理) | エ | | 1 | 3前 | | | | | 1 | | | | N | 1,2,3,4,5 | 教育学部所属教員 |
| | | | | | 障害児指導法Ｂ(後期)(障害児生理・病理) | エ | | 1 | 3後 | | | | | | 1 | | | N | 1,2,3,4,5 | |
| | | | | △ | 障害児指導法Ｃ(前期)(障害児心理) | エ | | 1 | 3前 | | | | | 1 | | | | N | 1,2,3,4 | 戸ヶ崎　泰子<br>半田　健 |
| | | | | | 障害児指導法Ｃ(後期)(障害児心理) | エ | | 1 | 3後 | | | | | | 1 | | | N | 1,2,3,4 | |
| | | | | | 特別支援基礎実践Ⅰ | ジ | | 1 | 2全 | | | 1 | | | | | | D,Ⅰ | 1,2,3,4 | 戸ヶ崎・若林・教育学部所属教員 |
| | | | | | 特別支援基礎実践Ⅱ | ジ | | 1 | 3全 | | | | | 1 | | | | D,Ⅰ | 1,2,3,4 | 戸ヶ崎・若林・教育学部所属教員 |
| | | | 心理、生理及び病理・教育課程及び指導法 | | 発達障害児の指導と支援 | コ | ② | | 2後 | | | | ② | | | | | N | 2,3,5 | 戸ヶ崎　泰子 |
| | | | | | 重複障害児教育 | コ | ② | | 3後 | | | | | | ② | | | N | 2,5 | 教育学部所属教員 |
| | | | | ○ | 視覚障害教育総論 | コ | ① | | 2前 | | | ① | | | | | | L | 2,5 | 教育学部所属教員 |
| | | | | ◎ | 聴覚障害教育総論 | コ | ① | | 2後 | | | | ① | | | | | L | 2,5 | 教育学部所属教員 |
| | | 教育実践に関する科目 | 教育実習 | | 特別支援学校観察実習 | ジ | ① | | 2全 | | | ① | | | | | | J | 2,3,4 | 教育実習運営委員会 |
| | | | | | 特別支援学校教育実習 | ジ | ② | | 4前 | | | | | | | ② | | J | 2,3,4 | 教育実習運営委員会 |
| | | 上記以外の領域に関する科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 修得すべき単位数 | | | | | | | 27 | 4 | | | | | | | | | | | | |

＊ △印の科目は、前後学期1単位ずつ(合計2単位)選択必修とする。

＊ ○印は奇数年度に開講される科目を表す。

＊ ◎印は偶数年度に開講される科目を表す。

＊ 科目の担当教員は変更になる可能性があります。

学校教育課程　課程共通(必修・選択)科目

| 分類 | 科目区分 A | 科目区分 B | 科目区分 C | 記号 | 授業科目 | 区別 | 単位 必修 | 単位 選択 | 配当年次 | 1年次 前 | 1年次 後 | 2年次 前 | 2年次 後 | 3年次 前 | 3年次 後 | 4年次 前 | 4年次 後 | 関連能力 | 教育方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 18 | 必修科目 | 大学が独自に設定する科目 | その他 | | 介護体験 | ジ | ① | | 1全 | ① | | | | | | | | C | 1,2,3,4,5 | 介護等体験活動運営委員会 |
| | | | | | 教育フィールド体験<br>(「自然・科学体験学習」「教育福祉体験学習(保育園コース)」「教育福祉体験学習(幼稚園コース)」「地域教育体験学習」「学校教育体験学習」より1つを選択) | ジ | ① | | 2前 | | | ① | | | | | | B | 2,3,4 | 教育ﾌｨｰﾙﾄﾞ体験運営委員会 |
| | | | | | 人権同和教育 | コ | ② | | 3後 | | | | | | ② | | | A | 2 | 椋木・関 |
| | 選択科目 | | | | 環境教育 | コ | | 2 | 2前 | | | 2 | | | | | | M | | 秋山・中林・西田・山北 |
| | | | | | 通常の学級における特別支援教育 | コ | | 2 | 2後 | | | | 2 | | | | | L | 2,3,5 | 戸ヶ崎・若林・半田・教育学部所属教員 |
| | | | | | 教育情報科学 | コ | | 2 | 2後 | | | | 2 | | | | | N | 2,3,5,6 | 小林　博典 |
| | | | | | プログラミング教育 | コ | | 2 | 3前 | | | | | 2 | | | | | | 小林　博典 |
| | | | | | 教室活用英語 | コ | | 2 | 3前 | | | | | 2 | | | | N | 3,4 | 教育学部所属教員 |
| | | | | | 教育実践英語 | コ | | 2 | 3後 | | | | | | 2 | | | N | 2,3 | 井崎　浩 |
| | | | | | 日本語支援教育概論 | コ | | 2 | 3後 | | | | | | 2 | | | | | 藤井（久）・寺尾・胡屋<br>(多言語多文化教育研究センター) |
| | 修得すべき単位数 | | | | | | 4 | | | | | | | | | | | | | |

地理歴史・公民・工業に関する教科教育法科目

| 分類 | 科目区分 A | 科目区分 B | 科目区分 C | 記号 | 授業科目 | 区別 | 単位 必修 | 単位 選択 | 配当年次 | 1年次 前 | 1年次 後 | 2年次 前 | 2年次 後 | 3年次 前 | 3年次 後 | 4年次 前 | 4年次 後 | 関連能力 | 教育方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 19 | | 各教科の指導法 | 地歴 | | 地理・歴史科教育法 | コ | | 2 | 3前 | | | | | 2 | | | | N | 2,3,5 | 藤本　将人 |
| | | | 公民 | | 公民科教育法 | コ | | 2 | 3後 | | | | | | 2 | | | N | 2,3,5 | 吉村　功太郎 |
| | | | 工業 | | 工業科教育法 | コ | | 4 | 2全 | | | 4 | | | | | | N | 2,3,5 | 湯地　敏史 |

卒業論文に関する科目

| 分類 | 科目区分 A | 科目区分 B | 科目区分 C | 記号 | 授業科目 | 区別 | 単位 必修 | 単位 選択 | 配当年次 | 1年次 前 | 1年次 後 | 2年次 前 | 2年次 後 | 3年次 前 | 3年次 後 | 4年次 前 | 4年次 後 | 関連能力 | 教育方法 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 20 | | | | | 卒業論文 | | ④ | | 4全 | | | | | | | ④ | | | | 教育学部指導教員 |

## 【8】体験活動及び教育実習等について

卒業時までに、以下の体験活動及び教育実習が必修科目として実施される。

教育学部では、4 年間の学習において、教職についての理解を深め、教科指導や生徒指導等に関する基礎的・基本的な資質能力・実践的指導力を身に付けるために、ステージ論に基づき、教育職員免許法に基づいて開講すべき科目群を、4 つのステージの中にそれぞれ適切に配置し、カリキュラムを構成している。

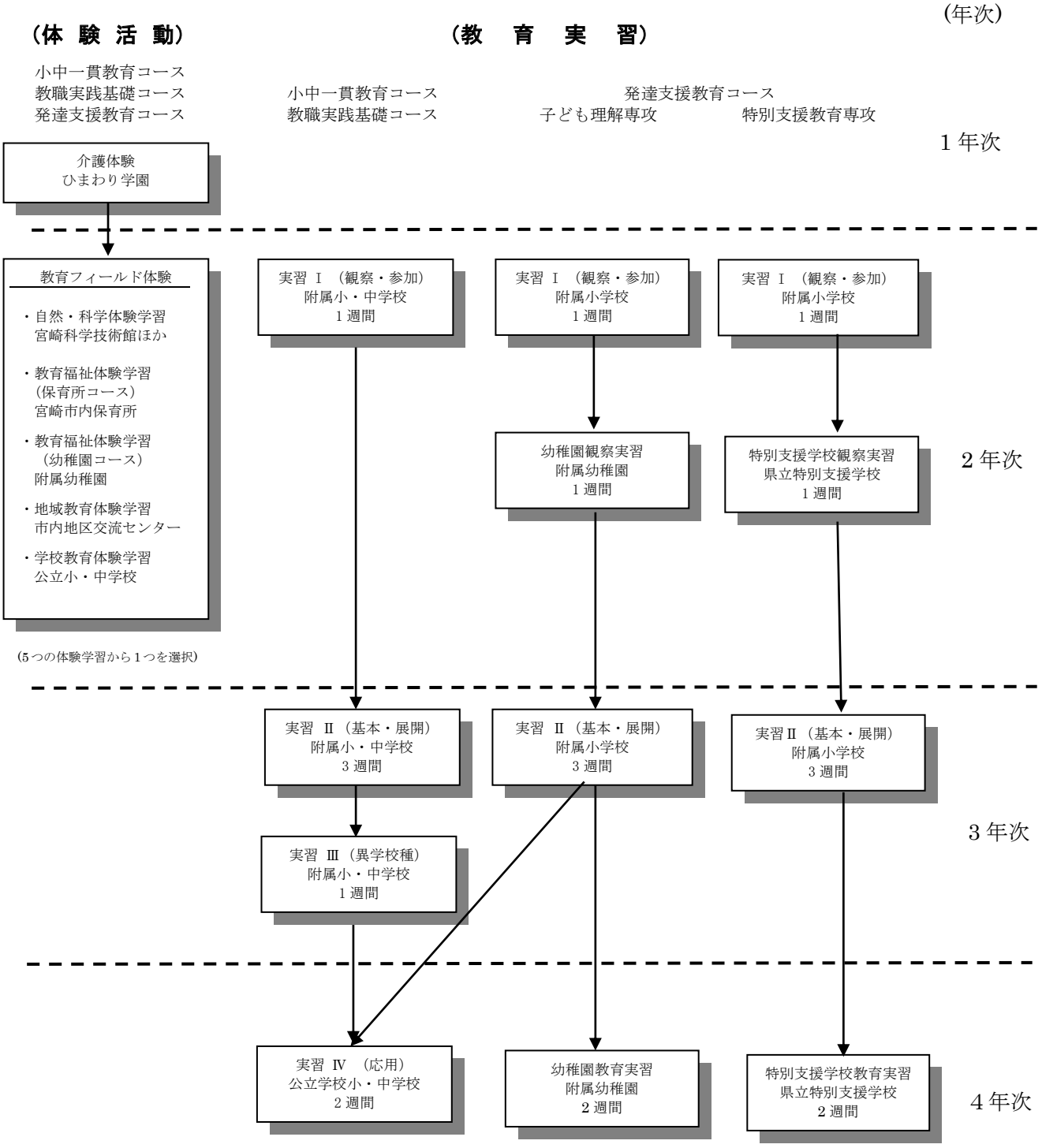
教育実習は、各ステージにおいて学習した教育理論と教育技術を実践することにより、様々な体験を通して、教師としての意識や能力をステップアップする場となっている。したがって、各教育実習を履修するための要件(履修要件)が設けてあるので、十分留意しておく必要がある。

### (1) 体験活動及び教育実習の内容

| | | |
|---|---|---|
| 介護体験<br>(1 単位)**注 1** | | ・ 障害児の話し相手、散歩等、日常生活の介護や介助等の援助を体験する。<br>・ 社会福祉法人知的障害児施設「ひまわり学園」で行う。 |
| 教育フィールド体験(1単位) | 自然・科学体験学習<br>**注 2** | ・ 子どもの自然体験や科学体験活動を支援する。<br>・ 宮崎科学技術館・青島青少年自然の家ほかで行う。 |
| | 教育福祉体験学習<br>(保育所コース) **注 2** | ・ 幼児の遊びや生活を観察する。<br>・ 宮崎市清武町内の 7 保育園で行う。 |
| | 教育福祉体験学習<br>(幼稚園コース) **注 2** | ・ 幼児の遊びや生活を観察する。<br>・ 附属幼稚園で行う。 |
| | 地域教育体験学習<br>**注 2** | ・ 主として異年齢の子どもとの遊びを企画し実践する。<br>・ 宮崎市内の地区交流センターで行う。 |
| | 学校教育体験学習<br>**注 2** | ・ 教員の職務について観察し、児童生徒とふれあう。<br>・ 公立小学校、又は中学校で行う。 |
| 教育実習 | 実習Ⅰ<br>(観察・参加)<br>(1 単位)**注 3** | ・ 子どもとふれあい、実態を理解する。学校生活の流れや授業の実際を観察し、教師になる心構えをもつ。<br>・ 附属小学校、又は附属中学校で行う。 |
| | 実習Ⅱ<br>(基本・展開)<br>(3 単位)**注 3** | ・ 子どもに対する理解を深め、実際の授業を行って適切な指導方法を体得する。学級経営の実際を学ぶ。<br>・ 附属小学校、又は附属中学校で行う。 |
| | 実習Ⅲ<br>(異学校種)<br>(1 単位)**注 3** | ・ 実習Ⅰ・実習Ⅱとは異なる学校種の子どもとふれあい、学校生活の流れや授業の実際を観察し、異なる学校種の特色を理解する。<br>・ 附属小学校、又は附属中学校で行う。 |
| | 実習Ⅳ<br>(応用)<br>(2 単位)**注 3** | ・ 子どもの個性や環境に配慮し、個に応じた指導を行う。学校の特色を理解し、地域との連携の方法を学ぶ。<br>・ 公立小学校、又は中学校で行う。 |
| | 幼稚園観察実習<br>(1 単位) | ・ 幼児とふれあい、幼児の生活の実態を理解する。教育課程から日々の保育の指導計画の流れに接し、幼児教育の実際を理解する。<br>・ 附属幼稚園で行う。 |
| | 幼稚園教育実習<br>(2 単位) | ・ 幼児に対する理解を深め、日々の保育の指導を計画するとともに、実際の保育を行って指導方法を体得する。<br>・ 附属幼稚園で行う。 |
| | 特別支援学校観察実習<br>(1 単位) | ・ 障害のある子どもとふれあい、さまざまな障害の実態を知り、障害の種類に応じた指導・支援の必要性について学ぶ。<br>・ 県立特別支援学校で行う。 |
| | 特別支援学校教育実習<br>(2 単位) | ・ 一人ひとりの障害の種類や程度に応じたきめ細やかな指導方法を体得する。特別支援学校の実際や保護者との連携について学ぶ。<br>・ 県立特別支援学校で行う。 |

注 1:土曜、日曜、祝祭日及び長期休暇中に実施する。事前・事後指導にも必ず出席しなければならない。
注 2:2 年次の 4 月初旬に 5 つの体験学習から 1 つを選択し、2 年次に履修する。
注 3:この他に「教育実習基礎研究」(必修 1 単位)もあわせて履修し、事前・事後指導にも必ず出席しなければならない。
なお、教育実習の詳しい内容については、実習前に配付する『教育実習の手引き』を参照すること。

## （2） 体験活動および教育実習の実施年次



### （3） 教育実習の履修基準

各教育実習を履修する者は、以下の要件を満たさなければならない。

#### １．実習Ⅰ

(1) 履修前年度までに、「教職入門」の単位を修得しているか、あるいは「教職入門」の中で行われる、附属学校園教諭担当の「教員の職務内容とチーム学校運営への対応」4 回のうち 3 回を受講していること。
(2) 履修年度前学期に行われる所定の教育実習事前指導及び実地指導を受講していること。
(3) 定期健康診断を受診していること。

#### ２．実習Ⅱ

(1) 履修前年度までに、以下の要件を満たしていること。
① 実習Ⅰが 60 点以上であること。
② 所定の 70 単位を修得していること。
③ 教育実習運営委員会が実施する教育実習に関する実地指導を受講していること。
(2) 履修年度前学期において、「各教科教育法Ⅰ」※の欠席数が 5 月末時点で 3 日以下であること。
※小学校主免専攻、教職実践基礎専攻、子ども理解専攻及び特別支援教育専攻の学生については初等国語、初等社会科、算数、初等理科、初等音楽科、図工科、体育科、初等家庭科、初等英語の 9 コマ全てを指す。中学校主免専攻の学生については、当該専攻の 1 コマを指す。
(3) 履修年度前学期に行われる所定の教育実習事前指導を受講していること。
(4) 定期健康診断を受診していること。

#### ３．実習Ⅲ

(1) 履修年度までに、実習Ⅱを履修し、「教育実習基礎研究」の授業担当者が指定した授業（実習Ⅱの事後指導）を受講していること。
(2) 定期健康診断を受診していること。

#### ４．実習Ⅳ

(1) 実習Ⅱ及び実習Ⅲ（子ども理解専攻の場合は幼稚園観察実習）が 60 点以上であること。
(2) 履修年度前学期に行われる所定の教育実習事前指導及び実地指導を受講していること。
(3) 定期健康診断を受診していること。

#### ５．幼稚園観察実習

(1) 実習Ⅰを履修していること。
(2) 履修年度前学期に行われる所定の教育実習事前指導及び実地指導を受講していること。
(3) 定期健康診断を受診していること。

#### ６．幼稚園教育実習

(1) 実習Ⅱが 60 点以上であること。
(2) 幼稚園観察実習が 60 点以上であること。
(3) 履修前年度までに、「教育実習基礎研究」の授業担当者が指定した授業（実習Ⅱの事後指導）を受講していること。
(4) 履修年度前学期に行われる所定の教育実習事前指導及び実地指導を受講していること。
(5) 定期健康診断を受診していること。

## ７．特別支援学校観察実習

(1) 実習Ⅰを履修していること。
(2) 履修年度前学期に行われる大学内及び実習校における特別支援学校観察実習事前指導を受講していること。
(3) 定期健康診断を受診していること。

## ８．特別支援学校教育実習

(1) 実習Ⅱ及び特別支援学校観察実習が 60 点以上であること。
(2) 履修前年度までに、分類 1 の「教科に関する専門事項」の科目を 8 単位以上修得していること。
(3) 履修前年度までに、分類 17 の「障害児教育学総論」及び「障害児教育課程」の単位を修得していること。
(4) 履修年度前学期に行われる大学内及び実習校における特別支援学校教育実習事前指導を受講していること。
(5) 定期健康診断を受診していること。

※ 編入学、再入学等により本学部に年次途中で入学してきた学生に対しては、上記要件を適用しない場合がある。

# ５．免許状の追加取得について

「４．カリキュラムの構成」の「【３】 各コースにおける専攻の種類と取得する教育職員（教員）免許状」に定める卒業要件である教員免許状に加えて、他の教員免許状を追加取得しようとする場合、以下により取得すること。

ただし、教員免許状の追加取得は、様々な理由によりできないこともある。したがって自己の責任において、本頁や時間割等を確認し、追加取得に向けて履修の前に十分検討すること。

## (1) 免許状取得の要領

① 自己の専攻の修得単位に、(2) 以下に説明する科目単位を追加修得すれば、それぞれの免許状が取得できる。ただし、科目単位の追加修得の際には、該当コース・教科の「★印のついた科目」を優先的に履修し、さらに足りない分は「単位数に○のついた科目」から履修することが望ましい。

② 追加修得単位が 21 単位未満で取得可能と思われる免許状の種類は次の通りである。

| 課程・コース等 ＼ 免許状 | | | 小学校教諭<br>普通免許状 | 中学校教諭<br>普通免許状 | 高等学校<br>教諭普通<br>免許状 | 特別支援<br>学校教諭<br>普通免許状 | 幼稚園教諭<br>普通免許状 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学校教育課程 | 小中一貫<br>教育コース | 小学校主免専攻 | **1種** | **2種**<br>1種 | 1種☆ | 2種 | 2種又は<br>1種 |
| | | 中学校主免専攻 | **2種**<br>1種 | **1種** | 1種☆ | 2種 | 2種 |
| | 教職実践<br>基礎コース | 教職実践<br>基礎専攻 | **1種** | 2種又は<br>1種 | 1種☆ | 2種 | 2種又は<br>1種 |
| | 発達支援<br>教育コース | 子ども理解専攻 | **1種** | 2種 | | 2種 | **1種** |
| | | 特別支援<br>教育専攻 | **1種** | 2種 | | **1種** | 2種又は<br>1種 |

**備考**

１．太字は卒業時に取得できる（卒業要件の）免許，細字は取得可能免許の例。

なお，☆の高校「地理歴史」，「公民」，「工業」については，指定された単位の修得が必要。

２．学校教育課程で取得できる中学校及び高等学校の免許教科は次のとおり。

中 学 校：国語・社会・数学・理科・音楽・美術・保健体育・技術・家庭・英語

高等学校：国語・地理歴史・公民・数学・理科・音楽・美術・保健体育・工業・家庭・英語

３．本学で取得できる特別支援学校の免許の領域は，知的障害・肢体不自由・病弱の 3 領域。

聴覚障害・視覚障害の領域については，取得できない。

４．学芸員の資格：所定の単位を修得し，申請すれば「学芸員に関する科目の単位修得証明書」が交付される。

５．学校図書館司書教諭の資格：大学で開催の講習単位を修得すれば「修了証書」が交付される。

③ 特別支援学校教諭免状の追加取得に関わる教育実習は、次の通り実施する予定である。この教育実習を履修する者は、「宮崎大学教育学部教育実習履修内規」に目を通すこと。

| 種別 | | 単位 | 学年 | 期間 |
|---|---|---|---|---|
| 特別支援学校 | 特別支援学校観察実習 | 3 | 4 | 1週間 |
| | 特別支援学校教育実習 | | | 2週間 |

④ 単位取得については、下表が示すように教育職員免許法および同法施行規則に定める所定の科目単位を修得しなければならない。

| 第1欄 | | 第2欄 | 第3欄 | |
|---|---|---|---|---|
| 所用資格<br>免許状の種類 | | 基礎資格 | 大学において修得することを必要とする最低単位数 | |
| | | | 教科及び教職に関する科目 | 特別支援教育に関する科目 |
| 小学校教諭 | 専修免許状 | 修士の学位を有すること。 | 83 | |
| | 1種免許状 | 学士の学位を有すること。 | 59 | |
| | 2種免許状 | 短期大学士の学位を有すること。 | 37 | |
| 中学校教諭 | 専修免許状 | 修士の学位を有すること。 | 83 | |
| | 1種免許状 | 学士の学位を有すること。 | 59 | |
| | 2種免許状 | 短期大学士の学位を有すること。 | 35 | |
| 高等学校教諭 | 専修免許状 | 修士の学位を有すること。 | 83 | |
| | 1種免許状 | 学士の学位を有すること。 | 59 | |
| 特別支援学校教諭 | 専修免許状 | 修士の学位を有すること及び小学校、中学校、高等学校又は幼稚園の教諭の普通免許状を有すること。 | | 50 |
| | 1種免許状 | 学士の学位を有すること及び小学校、中学校、高等学校又は幼稚園の教諭の普通免許状を有すること。 | | 26 |
| | 2種免許状 | 小学校、中学校、高等学校又は幼稚園の教諭の普通免許状を有すること。 | | 16 |
| 幼稚園教諭 | 専修免許状 | 修士の学位を有すること。 | 75 | |
| | 1種免許状 | 学士の学位を有すること。 | 51 | |
| | 2種免許状 | 短期大学士の学位を有すること。 | 31 | |

備　考　　第2欄の「修士の学位を有すること」には、大学（短期大学を除く。）の専攻科又は文部科学大臣の指定するこれに相当する課程に1年以上在学し、30単位以上修得した場合を含むものとする。

## （2） 小学校教諭普通免許状追加取得の方法

小学校教諭普通免許状を追加取得するには、下表の科目単位を修得しなければならない。なお、自己の専攻で修得する科目単位が活用できるので、それらは改めて修得する必要はない。

| 免許法施行規則に定める科目 | | 本学部の授業科目 | 単位数 | 最低修得単位数 | | 小中一貫教育コース |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 1種 | | 中主免専攻 |
| 教科及び教科の指導法に関する科目 | 教科に関する専門的事項 | 国語（書写を含む。）<br>社会<br>算数<br>理科<br>生活<br>音楽<br>図工<br>家庭<br>体育<br>小学校英語 | 2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2 | 10 | 30 | △(4) |
| | 各教科の指導法 | 小学校10教科の教育研究Ⅰ・Ⅱ | 各2 | 20 | | △(12) |
| 教育の基礎的理解に関する科目 | 教育の理念等 | 教育本質論 | 2 | 10 | | ○ |
| | 教職の意義等 | 教職入門 | 2 | | | |
| | 教育に関する社会的事項等 | 教育制度論 | 2 | | | |
| | 心身の発達及び学習の過程 | 学校教育心理学 | 2 | | | |
| | 特別の支援等 | 特別支援教育入門 | 2 | | | |
| | 教育課程の意義等 | 教育課程論 | 2 | | | |
| 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | 道徳の指導法 | 道徳教育論 | 2 | 10 | | ○ |
| | 総合的な学習の時間の指導法 | 総合的な学習の時間の指導法 | 1 | | | |
| | 特別活動の指導法 | 特別活動論 | 2 | | | |
| | 教育の方法及び技術 | 教育の方法と技術（情報機器及び教材の活用を含む。） | 2 | | | |
| | 生徒指導の理論及び方法 | 生徒指導概論（進路指導を含む。） | 2 | | | |
| | 教育相談の理論及び方法 | 教育相談（カウンセリングの基礎的知識を含む。） | 2 | | | |
| 教育実践に関する科目 | 教育実習 | 教育実習基礎研究（幼小） | 1 | 5 | | ○ |
| | | 教育実習 | 4 | | | |
| | 教職実践演習 | 教職実践演習（幼小中高） | 2 | 2 | | ○ |
| 大学が独自に設定する科目 | | 介護体験<br>教育フィールド体験<br>人権同和教育 | 4 | 2 | | ○ |

※○印は卒業所要単位で充足できることを表しており、免許を取得するために改めて修得する必要はない。△印は、卒業所要単位として修得する（ ）内の単位を利用できる場合であり、各欄において不足する単位を追加して修得すればよい。

### (3) 中学校教諭普通免許状追加取得の方法

中学校教諭普通免許状を追加取得するには、下表の科目単位を修得しなければならない。2 種免許を追加取得する者は専門教育科目表・分類 3～分類 12 の該当教科で「★印を付した科目」を履修する。また、1 種免許を追加取得する者は専門科目表・分類 3～分類 12 の該当教科で「★印を付した科目」を履修し、不足分を「単位数に○を付した科目」で補うことが望ましい。なお、自己の専攻で修得する科目単位が活用できるので、それらは改めて修得する必要はない。

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">免許法施行規則に定める科目</th><th rowspan="2">本学部の授業科目</th><th rowspan="2">単位数</th><th colspan="4">最低修得単位数</th><th>小中一貫教育コース</th><th>教職実践基礎コース</th><th colspan="2">発達支援教育コース</th></tr>
<tr><th colspan="2">1 種</th><th colspan="2">2 種</th><th>小主免専攻</th><th>教職実践基礎専攻</th><th>子ども理解専攻</th><th>特別支援教育専攻</th></tr>
<tr><td rowspan="2">教科及び教科の指導法に関する科目</td><td>教科に関する専門的事項</td><td>免許教科ごとの教科専門科目</td><td></td><td>20</td><td rowspan="2">28<br>注 1</td><td>10</td><td rowspan="2">12<br>注 1</td><td>△(14)</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>各教科の指導法</td><td>免許教科ごとの教科教育法科目</td><td>8</td><td>8</td><td>2</td><td>△(4)</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="7">教育の基礎的理解に関する科目</td><td>教育の理念等</td><td>教育本質論</td><td>2</td><td colspan="4" rowspan="7">10</td><td colspan="2" rowspan="7">6</td><td rowspan="7">○</td><td rowspan="7">○</td><td rowspan="7">○</td><td rowspan="7">○</td></tr>
<tr><td>教職の意義等</td><td>教職入門</td><td>2</td></tr>
<tr><td>教育に関する社会的事項等</td><td>教育制度論</td><td>2</td></tr>
<tr><td>心身の発達及び学習の過程</td><td>学校教育心理学</td><td>2</td></tr>
<tr><td>特別の支援等</td><td>特別支援教育入門</td><td>2</td></tr>
<tr><td>教育課程の意義等</td><td>教育課程論</td><td>2</td></tr>
<tr><td rowspan="6">道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目</td><td>道徳の指導法</td><td>道徳教育論</td><td>2</td><td colspan="4" rowspan="6">10</td><td colspan="2" rowspan="6">6</td><td rowspan="6">○</td><td rowspan="6">○</td><td rowspan="6">○</td><td rowspan="6">○</td></tr>
<tr><td>総合的な学習の時間の指導法</td><td>総合的な学習の時間の指導法</td><td>1</td></tr>
<tr><td>特別活動の指導法</td><td>特別活動論</td><td>2</td></tr>
<tr><td>教育の方法及び技術</td><td>教育の方法と技術（情報機器及び教材の活用を含む。）</td><td>2</td></tr>
<tr><td>生徒指導の理論及び方法</td><td>生徒指導概論（進路指導を含む。）</td><td>2</td></tr>
<tr><td>教育相談の理論及び方法</td><td>教育相談（カウンセリングの基礎的知識を含む。）</td><td>2</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育実践に関する科目</td><td rowspan="2">教育実習</td><td>教育実習基礎研究（中高）</td><td>1</td><td colspan="4" rowspan="2">5</td><td colspan="2" rowspan="2">5</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>教育実習</td><td>4</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>教職実践演習</td><td>教職実践演習（幼小中高）</td><td>2</td><td colspan="4">2</td><td colspan="2">2</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>大学が独自に設定する科目</td><td></td><td>介護体験<br>教育フィールド体験<br>人権同和教育</td><td>4</td><td colspan="4">4</td><td colspan="2">4</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
</table>

※○印は卒業所要単位で充足できることを表し、免許を取得するために改めて修得する必要はない。△印は、卒業所要単位として修得する( )内の単位を利用できる場合であり、各欄で不足する単位を追加して修得すればよい。

注 1：教育職員免許法に定める教科及び教科の指導法に関する科目の最低修得単位数は、1 種 28 単位、2 種 12 単位であるが、小学校主免専攻では卒業要件として教科に関する専門的事項を 14 単位、各教科の指導法を 4 単位、計 18 単位修得できるため 1 種を取得しようとする場合、該当教科の分類 3～分類 12 から、教科に関する専門的事項を 6 単位、各教科の指導法を 4 単位、計 10 単位を追加修得すること。

## （4） 高等学校教諭普通免許状追加取得の方法

高等学校教諭普通免許状を追加取得するには、下表の科目単位を修得しなければならない。なお、自己の専攻で修得する科目単位が活用できるので、それらは改めて修得する必要はない。

| 免許法施行規則に定める科目 | | 本学部の授業科目 | 単位数 | 最低修得単位数 | | 小中一貫教育コース | | 教職実践基礎コース |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 1種 | | 小主免専攻 | 中主免専攻 | 教職実践基礎専攻 |
| 教科及び教科の指導法に関する科目 | 教科に関する専門的事項 | 免許教科ごとの教科専門科目 | | 20 **注1** | 24 | △(14) **注2** | ○ **注2** | |
| | 各教科の指導法 | 免許教科ごとの教科教育法科目 | 4 | 4 **注3** | | △(2) | ○ | |
| 教育の基礎的理解に関する科目 | 教育の理念等 | 教育本質論 | 2 | 10 | | ○ | ○ | ○ |
| | 教職の意義等 | 教職入門 | 2 | | | | | |
| | 教育に関する社会的事項等 | 教育制度論 | 2 | | | | | |
| | 心身の発達及び学習の過程 | 学校教育心理学 | 2 | | | | | |
| | 特別の支援等 | 特別支援教育入門 | 2 | | | | | |
| | 教育課程の意義等 | 教育課程論 | 2 | | | | | |
| 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | 総合的な学習の時間の指導法 | 総合的な学習の時間の指導法 | 1 | 8 | | ○ | ○ | ○ |
| | 特別活動の指導法 | 特別活動論 | 2 | | | | | |
| | 教育の方法及び技術 | 教育の方法と技術（情報機器及び教材の活用を含む。） | 2 | | | | | |
| | 生徒指導の理論及び方法 | 生徒指導概論（進路指導を含む。） | 2 | | | | | |
| | 教育相談 | 教育相談（カウンセリングの基礎的知識を含む。） | 2 | | | | | |
| 教育実践に関する科目 | 教育実習 | 教育実習基礎研究（中高） | 1 | 3 | | ○ | ○ | |
| | | 教育実習 | 2 | | | | | ○ |
| | 教職実践演習 | 教職実践演習（幼小中高） | 2 | 2 | | ○ | ○ | ○ |
| 大学が独自に設定する科目 | | **注4** | 12 | 12 | | △(4) | △(6) | ○ |

※○印は卒業所要単位で充足できることを表しており、免許を取得するために改めて修得する必要はない。△印は、卒業所要単位として修得する（ ）内の単位を利用できる場合であり、各欄において不足する単位を追加して修得すればよい。

注1：教科に関する専門的事項の単位は教育職員免許法施行規則第5条に従い、同条に定める全ての科目を網羅して、20単位以上を修得する。ただし、高校免許に利用できる科目は教科によって異なる場合があるので、教務・学生支援係で確認すること。

注2： 卒業所要単位として修得する教科専門科目のうち、高校免許に利用できる科目は教科によって異なる場合があるので、教務・学生支援係で確認すること。

注3：免許教科の教育法Ⅱ及び教育法Ⅲを修得する必要がある。教育法Ⅰ及び教育法基礎は「大学が独自に設定する科目」に充てることができる。ただし、地理歴史は、「中等社会科教育法Ⅲ」・「地理歴史科教育法」 、公民は、「中等社会科教育法Ⅱ」・「公民科教育法」、工業は、「工業科教育法」を修得する必要があり、左記以外の科目は該当しない。

注4：この欄には、専門科目表分類18の必須科目「介護体験」「教育フィールド体験」「人権同和教育」の計4単位が含まれる。また、教科及び教科の指導法に関する科目、教育の基礎的理解に関する科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、教育実践に関する科目の最低修得単位数を超えて修得した単位をもって、この欄の単位に替えることができる。ただし、いずれの場合も取得しようとする免許種と関連のない科目については認められないことがあるので教務・学生支援係で確認すること。なお、教職実践基礎コースは卒業所要単位にて充たしている。

## （5） 特別支援学校教諭普通免許状(知的障害･肢体不自由･病弱)追加取得の方法

特別支援学校教諭普通免許状（知的障害・肢体不自由・病弱）を取得するには、基礎資格として、小学校・中学校・高等学校および幼稚園のいずれかの普通免許状を有し、さらに下表の科目単位を修得しなければならない。

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">免許法施行規則に定める科目</th><th rowspan="2">本学部の授業科目</th><th rowspan="2">単位数</th><th colspan="4">最低修得単位数</th></tr>
<tr><th colspan="2">1種<br>注1</th><th colspan="2">2種<br>注2</th></tr>
<tr><td rowspan="13">特別支援教育に関する科目</td><td colspan="2">特別支援教育の基礎理論に関する科目</td><td>障害児教育学総論</td><td>②</td><td colspan="2">2</td><td colspan="2">2</td></tr>
<tr><td rowspan="8">特別支援教育領域に関する科目</td><td rowspan="4">心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目</td><td>知的障害者の心理<br>《知的障害》</td><td>▲2</td><td rowspan="8">1以上</td><td rowspan="12">16</td><td rowspan="8">1以上</td><td rowspan="12">8</td></tr>
<tr><td>知的障害者の生理・病理<br>《知的障害》</td><td>▲2</td></tr>
<tr><td>肢体不自由者の心理・生理・病理<br>《肢体不自由》</td><td>②</td></tr>
<tr><td>病弱者の心理・生理・病理<br>《病弱》</td><td>②</td></tr>
<tr><td rowspan="4">心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目</td><td>障害児教育課程<br>《知的障害》</td><td>▲2</td><td rowspan="4">2以上</td><td rowspan="4">1以上</td></tr>
<tr><td>知的障害児教育<br>《知的障害》</td><td>▲2</td></tr>
<tr><td>肢体不自由児教育<br>《肢体不自由》</td><td>②</td></tr>
<tr><td>病弱児教育　《病弱》</td><td>②</td></tr>
<tr><td rowspan="4">免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目</td><td rowspan="4">・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目<br>・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目</td><td>発達障害児の指導と支援</td><td>2</td><td rowspan="4" colspan="2">5</td><td rowspan="4" colspan="2">3</td></tr>
<tr><td>重複障害児教育</td><td>2</td></tr>
<tr><td>視覚障害教育総論</td><td>①</td></tr>
<tr><td>聴覚障害教育総論</td><td>①</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習</td><td>特別支援学校観察実習<br>注3</td><td rowspan="2">③</td><td rowspan="2" colspan="2">3</td><td rowspan="2" colspan="2">3</td></tr>
<tr><td>特別支援学校教育実習<br>注4</td></tr>
</table>

注1： 1種免許状を追加取得する場合、表に示したすべての授業科目の単位を修得しなければならない。

注2： 2種免許状を追加取得する場合、免許法施行規則に定める「領域」を遺漏なく履修するためには、この表の単位に○を付した授業科目の単位を必ず修得しなければならない。また、▲印を付した「知的障害者の心理」及び「知的障害者の生理・病理」のうちどちらかの単位と「障害児教育課程」及び「知的障害児教育」のうちどちらかの単位の計4単位を必ず修得しなければならない。

注3： 「特別支援学校観察実習」の単位は、4年次に修得する。受講科目登録は4年次前学期に行う。

注4： 「特別支援学校教育実習」の単位は、4年次に修得する。受講科目登録は4年次前学期に行う。

## （6） 幼稚園教諭普通免許状取得の方法

幼稚園教諭普通免許状を取得するには、下表の科目単位を修得しなければならない。なお、自己の専攻で修得する科目単位が活用できるので、それらを改めて修得する必要はない。

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">免許法施行規則に定める科目</th><th rowspan="2">本学部の授業科目</th><th rowspan="2">単位数</th><th colspan="2" rowspan="2">最低修得単位数</th><th colspan="2" rowspan="2">小中一貫教育コース</th><th rowspan="2">教職実践基礎コース</th><th rowspan="2">発達支援教育コース</th></tr>
<tr></tr>
<tr><th colspan="2">1種</th><th colspan="2">2種</th><th>小主免専攻</th><th>中主免専攻</th><th>教職実践基礎専攻</th><th>特別支援教育専攻</th></tr>
<tr><td rowspan="8">領域及び保育内容の指導法に関する科目</td><td rowspan="6">領域に関する専門的事項<br>注1</td><td>国語(書写を含む。)<br>算数<br>生活<br>音楽<br>図工<br>体育</td><td>2<br>2<br>2<br>2<br>2<br>2</td><td rowspan="2">6</td><td rowspan="2">16</td><td rowspan="2">4</td><td rowspan="2">12</td><td rowspan="2">○</td><td rowspan="2">△(4)</td><td rowspan="2">○</td><td rowspan="2">○</td></tr>
<tr><td rowspan="2">保育内容（健康）の指導法<br>保育内容（人間関係）の指導法<br>保育内容（環境）の指導法<br>保育内容（言葉）の指導法<br>保育内容（表現）の指導法</td><td rowspan="2">2<br>2<br>2<br>2<br>2</td></tr>
<tr><td colspan="2">保育内容の指導法<br>注2</td><td>10</td><td>8</td></tr>
<tr><td rowspan="6">教育の基礎的理解に関する科目</td><td>教育の理念等</td><td>教育本質論</td><td>2</td><td colspan="2" rowspan="6">10</td><td colspan="2" rowspan="6">6</td><td rowspan="6">○</td><td rowspan="6">○</td><td rowspan="6">○</td><td rowspan="6">○</td></tr>
<tr><td>教職の意義等</td><td>教職入門</td><td>2</td></tr>
<tr><td>教育に関する社会的事項等</td><td>教育制度論</td><td>2</td></tr>
<tr><td>心身の発達及び学習の過程</td><td>学校教育心理学</td><td>2</td></tr>
<tr><td>特別の支援等</td><td>特別支援教育入門</td><td>2</td></tr>
<tr><td>教育課程の意義等</td><td>教育課程論</td><td>2</td></tr>
<tr><td rowspan="3">道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目</td><td>教育相談の理論及び方法</td><td>教育の方法と技術（情報機器及び教材の活用を含む。）</td><td>2</td><td colspan="2" rowspan="3">4</td><td colspan="2" rowspan="3">4</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>幼児理解の理論及び方法</td><td rowspan="2">幼児の理解と教育相談</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>教育相談の理論及び方法</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育実践に関する科目</td><td rowspan="2">教育実習</td><td>教育実習基礎研究（幼小）</td><td>1</td><td colspan="2" rowspan="2">5</td><td colspan="2" rowspan="2">5</td><td rowspan="2">○</td><td rowspan="2">○</td><td rowspan="2">○</td><td rowspan="2">○</td></tr>
<tr><td>教育実習</td><td>4</td></tr>
<tr><td>教職実践演習</td><td>教職実践演習（幼小中高）</td><td>2</td><td colspan="2">2</td><td colspan="2">2</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>大学が独自に設定する科目</td><td></td><td>注3</td><td></td><td colspan="2">14</td><td colspan="2">2</td><td>△<br>(4)</td><td>△<br>(4)</td><td>△<br>(4)</td><td>△<br>(4)</td></tr>
</table>

※○印は卒業所要単位で充足できることを表し、免許を取得するために改めて修得する必要はない。△印は、卒業所要単位として修得する(　)内の単位を利用できる場合であり、各欄で不足する単位を追加して修得すればよい。

注1：改正施行規則附則第7項に従い、領域に関する専門的事項については小学校の「教科に関する専門的事項」の科目にて替えることができる。ただし、社会、理科、家庭、小学校英語は含まれないので注意すること。

注2：保育内容の指導法に関する科目の単位の半数（1種の場合5単位、2種の場合4単位）までを「小学校各教科の指導法（社会、理科、家庭、英語を除く）」または「特別活動論」の単位をもって替えることができる。

注3：この欄には、専門科目表分類18の必須科目「介護体験」「教育フィールド体験」「人権同和教育」の計4単位が含まれる。また、教科及び教科の指導法に関する科目、教育の基礎的理解に関する科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、教育実践に関する科目の最低修得単位数を超えて修得した単位をもって、この欄の単位に替えることができる。ただし、いずれの場合も取得しようとする免許種と関連のない科目については認められないことがあるので教務・学生支援係で確認すること。